

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部・学科の設置							
フリガナ設置者		カヅコリョウジン トウキョウジ ヨシダ イナリ 学校法人 東京女子大学							
フリガナ大学の名称		トウキョウジ ヨシダ イナリ 東京女子大学							
大学本部の位置		東京都杉並区善福寺二丁目6番1号							
大学の目的		東京女子大学は、キリスト教を教育の根本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教養を授け、専門の学術を教授研究し、もって真理と平和を愛し人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。							
新設学部等の目的		経済経営学科は、経済学、経営学、地域デザインを横断的に学ぶことを通して、理論と実践の双方から多様な視点と論理的思考を育み、企業、行政、地域等において社会課題に対する戦略的な解決策を自ら提案し担っていくことができる人物の育成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	現代教養学部	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	東京都杉並区善福寺二丁目6番1号
	経済経営学科	4	155	—	620	学士（教養）	経済学関係 社会学・社会福祉学関係	令和7年4月 第1年次	
	計		155	—	620				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		令和7年4月 現代教養学部 人文学科〔定員増〕（15）（令和7年4月） 国際社会学科（120）（令和6年4月届出予定） 心理学科（80）（令和6年4月届出予定） 社会コミュニケーション学科（145）（令和6年4月届出予定） 数理科学科 → 情報数理科学科〔定員減〕（△1）（令和7年4月名称変更予定） 令和7年4月学生募集停止 現代教養学部 国際英語学科（廃止）（△100） 国際社会学科（廃止）（△284） 心理・コミュニケーション学科（廃止）（△200）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	現代教養学部 経済経営学科	186科目	84科目	14科目	284科目	124単位			
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	令和6年4月届出済み（予定） 大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 7人
新	現代教養学部 国際社会学科	人	人	人	人	人	人	人	
		7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	1 (1)	231 (148)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			

設	現代教養学部 経済経営学科						11 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (12)	0 (0)	223 (139)	令和6年4月届出済み（予定）
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (12)								大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の数 9人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
	小計（a～b）	11 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (12)								
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
	計（a～d）	11 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (12)								
	現代教養学部 心理学科						8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	218 (145)	令和6年4月届出済み（予定）
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)								大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の数 5人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
	小計（a～b）	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)								
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
	計（a～d）	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)								
	現代教養学部 社会コミュニケーション学科						7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	1 (1)	231 (130)	令和6年4月届出済み（予定）
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)								大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の数 8人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
	小計（a～b）	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)								
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)								
	計（a～d）	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)								
分	計						33 (32)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	45 (44)	2 (2)	— (—)	

女性学研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)				
分	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計	35 (40)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	46 (51)	3 (6)	— (—)				
合 計		68 (72)	19 (19)	4 (4)	0 (0)	91 (95)	5 (8)	— (—)				
職 種		専 属				そ の 他		計				
事 務 職 員		92 (92) 人				37 (37) 人		129 (129) 人				
技 術 職 員		4 (4)				2 (2)		6 (6)				
図 書 館 職 員		5 (5)				0 (0)		5 (5)				
そ の 他 の 職 員		0 (0)				0 (0)		0 (0)				
指 導 補 助 者		0 (0)				0 (0)		0 (0)				
計		101 (101)				39 (39)		140 (140)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計					
	校 舎 敷 地	89,230㎡		0㎡		0㎡		89,230㎡				
	そ の 他	5,303㎡		0㎡		0㎡		5,303㎡				
	合 計	94,533㎡		0㎡		0㎡		94,533㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計					
		23,482.58㎡ (23,482.58㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		23,482.58㎡ (23,482.58㎡)				
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室		113室		教 員 研 究 室		117室	大学全体			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		電子図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕種	機械・器具 点	標本 点	学科単位での特定が不能なため、大学全体の数
			883,509 [440,461] (872,043 [438,685])		284,298 [279,878] (283,266 [279,308])		14,406 [10,159] (14,406 [10,159])		8,620 [8,555] (8,620 [8,555])	4,143 (4,143)	0 (0)	
	経済経営学科		883,509 [440,461] (872,043 [438,685])		284,298 [279,878] (283,266 [279,308])		14,406 [10,159] (14,406 [10,159])		8,620 [8,555] (8,620 [8,555])	4,143 (4,143)	0 (0)	
	計		883,509 [440,461] (872,043 [438,685])		284,298 [279,878] (283,266 [279,308])		14,406 [10,159] (14,406 [10,159])		8,620 [8,555] (8,620 [8,555])	4,143 (4,143)	0 (0)	
スポーツ施設等		スポーツ施設			講 堂			厚生補導施設			大学全体	
		— ㎡			1,336㎡			1,688㎡				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。		
		教員1人当り研究費等		480千円	480千円	480千円	480千円	— 千円	— 千円			
		共同研究費等		5,550千円	5,550千円	5,550千円	5,550千円	— 千円	— 千円			
		図 書 購 入 費	100,630千円	100,630千円	100,630千円	100,630千円	100,630千円	— 千円	— 千円			
		設 備 購 入 費	4,938千円	4,938千円	4,938千円	4,938千円	4,938千円	— 千円	— 千円			
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
				1,350千円	1,162千円	1,174千円	1,186千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等										

大 学 等 の 名 称	東京女子大学								所 在 地	
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度			
既設大学等の状況	現代教養学部	年	人	年次人	人		倍		東京都杉並区善福寺二丁目6番1号	
	国際英語学科	4	100	—	515	学士（教養）	1.06	平成30年度		※令和4年度入学定員減（25人） ※令和6年度入学定員減（30人）
	人文学科	4	205	—	815	学士（教養）	1.11	平成21年度		※令和4年度入学定員増（5人）
	国際社会学科	4	284	—	1,122	学士（教養）	1.10	平成21年度		※令和4年度入学定員増（14人）
	心理・コミュニケーション学科	4	200	—	795	学士（教養）	1.08	平成30年度		※令和4年度入学定員増（5人）
	人間科学科	4	—	—	—	学士（教養）	—	平成21年度		※平成30年度より学生募集停止（人間科学科）
	数理科学科	4	71	—	283	学士（理学）	1.02	平成21年度		※令和4年度入学定員増（1人）
	計		860	—	3,530		1.09			
	東京女子大学大学院									
	人間科学研究科									
	（博士前期課程）									
	人間文化科学専攻	2	22	—	44	修士（人間文化科学）	0.47	平成24年度		
	人間社会科学専攻	2	20	—	40	修士（人間社会科学）	0.92	平成24年度		
	計		42	—	84					
	（博士後期課程）									
	人間文化科学専攻	3	4	—	12	博士（人間文化科学）	0.66	平成17年度		
	生涯人間科学専攻	3	5	—	15	博士（生涯人間科学）	0.06	平成17年度		
	計		9	—	27					
	理学研究科									
	（博士前期課程）									
数理科学専攻	2	6	—	12	修士（理学）	0.83	昭和46年度	※令和6年度より名称変更		
（博士後期課程）										
数理科学専攻	3	3	—	9	博士（理学）	0.22	平成17年度	※令和6年度より名称変更		
計		9	—	21						
	名称：東京女子大学図書館 目的：東京女子大学における教育及び研究に対する図書館の使命を十分に果たすため、本学における図書館資料の収集、管理及び効果的な運用を図るとともに、学術情報の提供に努める。 所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月：昭和23年4月 規模等：5,762.86㎡（床面積）									
	名称：東京女子大学比較文化研究所 目的：人文・社会・自然の諸領域における比較文化的研究及び日本キリスト教史・キリスト教文化に関する研究と資料の収集を行い、併せて国内外の学術交流に貢献する。 所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月：昭和29年6月 規模等：193.11㎡（床面積）									
	名称：東京女子大学女性学研究所 目的：真に平等な社会の実現をめざし、女性学・ジェンダーの研究及びそれらの教育の発展に資する国内外共同研究の場として設置され、(1)女性学・ジェンダー研究の促進、(2)女性学・ジェンダー研究の教育的実践、(3)女性学・ジェンダー研究の発展を目的とした国内外における研究交流、(4)アジア諸国における女性学・ジェンダー研究ネットワークの形成、(5)グローバル社会における女性学・ジェンダー研究の推進を目的として活動する。 所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月：平成2年4月（昭和51年比較文化研究所内に女性学センターが併設され、平成2年4月に独立） 規模等：199.29㎡（床面積）									

附属施設の概要	名称：東京女子大学情報処理センター 目的：情報処理活動を通じ東京女子大学の教育及び研究の向上並びに事務処理の円滑な運営に資する。 所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月：昭和63年11月（昭和45年3月設置電子計算室を改名） 規模等：347.04㎡（床面積） 名称：東京女子大学心理臨床センター 目的：東京女子大学大学院人間科学研究科人間社会科学専攻臨床心理学分野の学生の臨床実習及び臨床心理学に関する研修、研究等を行う。さらに、地域社会・地域住民等の要請に応じて心理臨床活動を展開し、必要に応じて学内外の諸機関と協働し、地域社会の成長・発展に貢献し、本学の教育・研究の推進に寄与する。 所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月：平成21年4月 規模等：－ 名称：東京女子大学英語センター 目的：グローバル社会に対応した国際共通語としての英語力を養成するために、全学横断的な英語運用能力の向上を図る教育活動の発展及び研究を継続的に行う。 所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月：令和4年4月 規模等：173.26㎡（床面積） 名称：東京女子大学AI・データサイエンス教育研究センター 目的：数理・データサイエンス・AI教育及び研究を確立・強化し、先端技術の進歩にともなう急激な社会変化に対応し、その理解と必要な基礎力を涵養するとともに当該分野・技術の研究・応用を牽引してゆく人材の育成に資する。 所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月：令和4年4月 規模等：－
---------	---

- （注）
- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
 - 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
 - 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 7 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

組織の移行表

令和 6(2024)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和 7(2025)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東京女子大学				東京女子大学				
現代教養学部				現代教養学部				
国際英語学科	100	-	400	<u>0</u>	-	<u>0</u>		令和 7 年 4 月学生募集停止
人文学科	205	-	820	<u>220</u>	-	<u>880</u>		定員変更(15)
国際社会学科	284	-	1136	<u>0</u>	-	<u>0</u>		令和 7 年 4 月学生募集停止
				<u>国際社会学科</u>	<u>120</u>	-	<u>480</u>	学科の設置(届出)
				<u>経済経営学科</u>	<u>155</u>	-	<u>620</u>	学科の設置(届出)
心理・コミュニケーション学科	200	-	800	<u>0</u>	-	<u>0</u>		令和 7 年 4 月学生募集停止
人間科学科	-	-	-	-	-	-		平成 30 年 4 月学生募集停止
				<u>心理学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>	学科の設置(届出)
				<u>社会コミュニケーション学科</u>	<u>145</u>	-	<u>580</u>	学科の設置(届出)
数理科学科	71	-	284	<u>情報数理科学科</u>	<u>70</u>	-	<u>280</u>	名称変更、定員変更(△1)
計	860	-	3440	計	<u>790</u>	-	<u>3160</u>	
東京女子大学大学院				東京女子大学大学院				
人間科学研究科				人間科学研究科				
人間文化科学専攻 (博士前期課程)	22	-	44	人間文化科学専攻 (博士前期課程)	22	-	44	
人間文化科学専攻 (博士後期課程)	4	-	12	人間文化科学専攻 (博士後期課程)	4	-	12	
人間社会科学専攻 (博士前期課程)	20	-	40	人間社会科学専攻 (博士前期課程)	20	-	40	
生涯人間科学専攻 (博士後期課程)	5	-	15	生涯人間科学専攻 (博士後期課程)	5	-	15	
理学研究科				理学研究科				
数理科学専攻 (博士前期課程)	6	-	12	数理科学専攻 (博士前期課程)	6	-	12	
数理科学専攻 (博士後期課程)	3	-	9	数理科学専攻 (博士後期課程)	3	-	9	
計	60	-	132	計	60	-	132	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（現代教養学部経済経営学科）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
学 科 科 目	入門 経済経営地域デザイン概論	1前	○	2			○			8	1				1	オムニバス
	（経済学） ミクロ経済学入門	1前	○	2			○			1						
	マクロ経済学入門	1後	○	2			○			1						
	（経営学） 経営学入門	1前	○	2			○			1						
	マーケティング入門	1後	○	2			○			1						
	（地域デザイン） 公共政策論	1前	○	2			○			1						
	まちづくりとコミュニティ	1前	○	2			○								1	
	サステナビリティとグローバル共生	1前	○	2			○			1						
	小計（8科目）	—	—	16			—			9	1				1	
	基盤講義 （経済学） 初級ミクロ経済学	2・3前			2		○			1						*1
	初級マクロ経済学	2・3後			2		○			1						*1
	経済の数学	2・3前			2		○			1						*1
	統計学	2・3後			2		○			1						*1
	財政学	2・3後			2		○			1						*1
	公共経済学	2・3前			2		○			1						*1
	経済政策	2・3後			2		○			1						*1
	（経営学） 経営戦略論	2・3後			2		○			1						*1
	経営組織論	2・3前			2		○				1					*1
	会計学基礎	2・3前			2		○							1		*1
	ファイナンス基礎	2・3前			2		○				1					*1
	（地域デザイン） コミュニティと情報メディア	2・3前			2		○								1	*1
	官民パートナーシップ	2・3後			2		○			1						*1
	観光法制度論	2・3後			2		○			1						*1
発 展 講 義 （経済学）	経済史	2・3・4後			2		○								1	*2
	中級ミクロ経済学	2・3・4後			2		○			1						*2
	中級マクロ経済学	2・3・4前			2		○			1						*2
	日本経済論	2・3・4前			2		○			1						*2
	国際経済学	2・3・4前			2		○			1						*2
	開発経済学Ⅰ	2・3・4前			2		○							1		*2
	計量経済学	2・3・4前			2		○			1						*2
	環境経済学	2・3・4前			2		○			1						*2
	労働経済学	2・3・4前			2		○							1		*2
	金融論	2・3・4後			2		○			1						*2
	産業組織論	2・3・4前			2		○							1		*2
	ゲームの理論	2・3・4前			2		○			1						*2
	企業の経済学	2・3・4前			2		○							1	隔年	*2
	都市・地域経済学	2・3・4後			2		○			1						*2
	ジェンダーの経済学	2・3・4後			2		○							1	隔年	*2
	福祉の経済学	2・3・4前			2		○							1	隔年	*2
	現代経済論	2・3・4後			2		○							1	隔年	*2
	新興地域経済論	2・3・4後			2		○							1	隔年	*2
	アジア地域経済論	2・3・4後			2		○							1	隔年	*2
	国際地域経済論	2・3・4後			2		○			1						*2
	日本経済史	2・3・4前			2		○							1	隔年	*2
	保険論	2・3・4後			2		○							1		*2

教 育 課 程 等 の 概 要																
(現代教養学部経済経営学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
(経営学)	証券論	2・3・4前			2		○								1	*2
	経営管理論	2・3・4前			2		○				1					*2
	人的資源管理論	2・3・4後			2		○				1					*2
	消費者行動論	2・3・4前			2		○			1						*2
	ブランド論	2・3・4後			2		○								1	*2
	流通論	2・3・4前			2		○			1						*2
	組織行動論	2・3・4後			2		○			1						*2
	リーダーシップ論	2・3・4後			2		○			1						*2
	財務管理論	2・3・4後			2		○				1					*2
	簿記論	2・3・4前			2		○								1	*2
	財務会計	2・3・4前			2		○								1	*2
	管理会計	2・3・4後			2		○								1	*2
	監査論	2・3・4後			2		○								1	*2
	国際経営	2・3・4前			2		○								1	*2
	コーポレートガバナンス	2・3・4前			2		○			1						*2
	イノベーションマネジメント	2・3・4後			2		○			1						*2
	起業論	2・3・4後			2		○								1	*2
	中小企業論	2・3・4後			2		○								1	*2
	ソーシャルビジネス論	2・3・4後			2		○			1						*2
	環境経営論	2・3・4前			2		○			1						*2
	経営史	2・3・4前			2		○								1	隔年 *2
(地域デザイン)	実践的研究計画法 (研究計画)	2・3・4前			2		○								1	*2
	実践的研究計画法 (研究構想)	2・3・4後			2		○								1	*2
	コミュニティ調査実習 (企画・立案・設計)	2・3・4前			2			○							1	*2
	コミュニティ調査実習 (実査と分析)	2・3・4後			2			○							1	*2
	地域政策とまちづくり	2・3・4後			2		○								1	*2
	コミュニティとジェンダー	2・3・4後			2		○			1						隔年 *2
	創造都市論	2・3・4前			2		○								1	*2
	余暇ツーリズム論	2・3・4前			2		○			1						*2
	ツーリズムとジェンダー	2・3・4前			2		○								1	*2
	地域社会論	2・3・4後			2		○			1						*2
	サステナビリティと地域社会	2・3・4後			2		○			1						*2
	ソーシャル・キャピタル論	2・3・4後			2		○								1	*2
	コミュニティデザイン論	2・3・4後			2		○								1	*2
	地理学とジェンダー	2・3・4後			2		○			1						隔年 *2
	インバウンド・ツーリズム論	2・3・4後			2		○			1						*2
	持続可能な観光地域づくり	2・3・4休			2		○								1	*2
	環境政策概論	2・3・4後			2		○			1						*2
	世界遺産学A	2・3・4後			2		○								1	隔年 *2
	世界遺産学B	2・3・4後			2		○								1	隔年 *2
	都市フィールドワーク	2・3・4後			2		○								1	*2
(法律)	経済法	2・3・4前			2		○								1	隔年 *2
	企業法	2・3・4前			2		○								1	*2
	労働法	2・3・4後			2		○								1	隔年 *2
	行政と法	2・3・4後			2		○			1						*2
	市民参加と法	2・3・4前			2		○								1	*2
小計 (82科目)		—	—		136		—			9	1				26	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(現代教養学部経済経営学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
知 の か け は し 科 目	基礎演習Ⅰ	1前	○	2				○		5						
	基礎演習Ⅱ	1後	○	2				○		5						
	2年次拠点実習Ⅰ	2前	○	2				○		4	1				1	
	2年次拠点実習Ⅱ	2後	○	2				○		4	1				1	
	小計(4科目)	—	—	8				—		9	1				1	
	発展演習Ⅰ	3前	○	2				○		9	1				1	
	発展演習Ⅱ	3後	○	2				○		9	1				1	
	4年次演習Ⅰ	4前	○	2				○		9	1				1	
	4年次演習Ⅱ	4後	○	2				○		9	1				1	
	小計(4科目)	—	—	8				—		9	1				1	
	卒業論文	4通	○	8				○		9	1				1	
	小計(1科目)	—	—	8				—		9	1				1	
	学科合計(99科目)	—	—	40	136	0		—		9	1				26	
	以下は全学共通カリキュラム等															
	人文社会横断型A	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型B	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型C	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型D	1・2・3・4前	○		2			○		1					1	共同
	人文社会横断型E	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型F	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型G	1・2・3・4前	○		2			○		1					1	共同
	人文社会横断型H	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型I	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型J	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型K	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型L	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型M	1・2・3・4前	○		2			○		1					1	共同
	人文社会横断型N	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型O	1・2・3・4後	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型P	1・2・3・4後	○		2			○		1					1	共同
	人文社会横断型Q	1・2・3・4後	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型R	1・2・3・4後	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型S	1・2・3・4後	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型T	1・2・3・4後	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型U	1・2・3・4後	○		2			○		1					1	共同
	人文社会横断型V	1・2・3・4後	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型W	1・2・3・4後	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型X	1・2・3・4後	○		2			○							2	共同
	人文社会横断型Y	1・2・3・4後	○		2			○			1				1	共同
	人文社会横断型Z	1・2・3・4後	○		2			○							2	共同
	自然科学包含型A	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	自然科学包含型B	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	自然科学包含型C	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	自然科学包含型D	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	自然科学包含型E	1・2・3・4前	○		2			○							2	共同
	自然科学包含型F	1・2・3・4後	○		2			○							2	共同
	自然科学包含型G	1・2・3・4後	○		2			○		1					1	共同
	自然科学包含型H	1・2・3・4後	○		2			○		1					1	共同
	自然科学包含型I	1・2・3・4後	○		2			○							2	共同
	小計(35科目)	—	—		70			—		7	1				61	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(現代教養学部経済経営学科)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員以外の教員			
女性 の 生 き る 力 科 目	挑戦するリベラルアーツ	1・2・3・4後			2		○			2	1					12	オムニバス	
	女性学・ジェンダーを学ぶ	1・2・3・4前・後			3		○			1								
	女性のキャリア形成	1・2・3・4前			2		○			1								
	女性と社会	1・2・3・4前・後			2		○									1		
	女性のウェルビーイング	1・2・3・4後			2		○									1		
	女性の起業	2・3・4前			2		○									1		
	女性のための金融リテラシー入門	1・2・3・4前			2		○			1								
	日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○									1		
	ケンブリッジ教養講座	2・3・4通			2		○											
	女性のウェルネス・身体運動	1前・後	○	1					○							1		
	からだの科学	2・3・4前			2		○									1		
	発育と発達	2・3・4前			2		○									1		
	栄養と健康	2・3・4後			2		○									1		
	女性の健康科学	2・3・4後			2		○									1		
	性と生命 (セクソロジー)	2・3・4後			2		○									1		
	女性の心身コンディショニング	2・3・4後			2		○									1		
	小計 (16科目)	—	—	1	31		—			4	1					20		
	実践	スポーツA	2・3・4後			1				○							1	隔年
		スポーツB	2・3・4後			1				○							1	
		スポーツC	2・3・4前			1				○							1	
		スポーツD	2・3・4前			1				○							1	
		フィジカルエクササイズA	2・3・4前			1				○							1	
		フィジカルエクササイズB	2・3・4前			1				○							1	
		フィジカルエクササイズC	2・3・4後			1				○							1	
		身体表現A	2・3・4前			1				○							1	
		身体表現B	2・3・4後			1				○							1	
		身体表現C	2・3・4前			1				○							1	
	小計 (10科目)	—	—		10		—									10		
	キリスト 教学科目	基礎																
キリスト教学入門Ⅰ		1前	○	2			○									3		
キリスト教学入門Ⅱ		1後	○	2			○									3		
小計 (2科目)		—	—	4			—									3		
発展																		
キリスト教学概論		2・3・4前			2		○									1		
聖書の世界		2・3・4後			2		○									1		
キリスト教と倫理		2・3・4前			2		○									1		
キリスト教の歴史		2・3・4後			2		○									1		
日本のキリスト教		2・3・4前			2		○									1		
キリスト教の思想・文化	2・3・4後			2		○									1			
キリスト教と諸宗教	2・3・4前			2		○									1			
キリスト教と芸術	2・3・4後			2		○									1			
キリスト教と音楽	1・2・3・4前			2		○									1			
キリスト教学講読	2・3・4後			2		○									1			
小計 (10科目)	—	—		20		—									4			
P G l o o b a l S t u d i e s S e m i n a r C o u r s e s i n P r o g r a m	Integrated English A	1前			1			○								1		
	Integrated English B	1前			1			○								1		
	Integrated English C	1後			1			○								1		
	Integrated English D	1後			1			○								1		
	Global Studies Seminar A	1前			2			○								1		
	Global Studies Seminar B	1後			2			○								1		
	Global Liberal Arts A	2・3・4前			2			○								1		
	Global Liberal Arts B	2・3・4前			2			○								1		
	Study Abroad Preparatory English	2前			1			○								1		
	Post-SA Research Seminar	3後			2			○								1		
	Global Citizenship WorkshopⅠ	4前			2			○								1		
	Global Citizenship WorkshopⅡ	4後			2			○								1		
	SA-based Global English	2後・3前			4-17			○										
	小計 (13科目)	—	—	—	23-36		—									5		

教 育 課 程 等 の 概 要																
(現代教養学部経済経営学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員以外の教員	
第一外国語科目	Academic Discussion Skills A	1前	○	1				○							12	
	Academic Discussion Skills B	1後	○	1				○							12	
	Academic Reading Skills A	1前	○	1				○							14	
	Academic Reading Skills B	1後	○	1				○							14	
	Academic Writing Skills I	1前	○	1				○							13	
	Academic Writing Skills II	1後	○	1				○							13	
	Exploring Content: Listening/Speaking A	2前	○	1				○							13	
	Exploring Content: Listening/Speaking B	2後	○	1				○							13	
	Exploring Content: Reading/Writing A	2前	○	1				○							17	
	Exploring Content: Reading/Writing B	2後	○	1				○							17	
	Presenting Research	2・3・4前・後			2			○							3	
	Writing Research Papers	2・3・4前・後			2			○							4	
	Media Literacy	2・3・4前・後			1			○							1	
	English through Literature	2・3・4後			2			○							1	
	Topics in Language Study	2・3・4後			2			○							1	
	Topics in Arts and Sciences	2・3・4前			2			○							1	
	IELTS	1・2・3・4前・後			1			○							1	
	Business English	2・3・4前・後			1			○							1	
	Pronunciation	1・2・3・4前・後			1			○							2	
	英語音声学	1・2・3・4後			2			○							1	
	Extensive Reading	2・3・4後			1			○							1	
	Study Skills	1前			1			○							3	
	Intensive English	1・2・3・4通			2			○								
	日本語 I (入門)	1前			4			○							2	
	日本語 II (応用)	1後			4			○							2	
	小計 (25科目)	—	—	10	28			—							63	
第二外国語科目	ドイツ語初級 1	1前	○		2			○							3	
	フランス語初級 1	1前	○		2			○							6	
	スペイン語初級 1	1前	○		2			○							5	
	中国語初級 1	1前	○		2			○							11	
	韓国語初級 1	1前	○		2			○							9	
	ドイツ語初級 2	1後	○		1			○							2	
	フランス語初級 2	1後	○		1			○							3	
	スペイン語初級 2	1後	○		1			○							2	
	中国語初級 2	1後	○		1			○							7	
	韓国語初級 2	1後	○		1			○							5	
	ドイツ語 (読解)	2・3・4前・後			1			○							1	
	ドイツ語 (会話)	2・3・4前・後			1			○							1	
	ドイツ語 (総合)	2・3・4前・後			1			○							1	
	フランス語 (読解)	2・3・4前・後			1			○							2	
	フランス語 (会話)	2・3・4前・後			1			○							2	
	フランス語 (総合)	2・3・4前・後			1			○							2	
	スペイン語 (読解)	2・3・4前・後			1			○							2	
	スペイン語 (会話)	2・3・4前・後			1			○							3	
	スペイン語 (総合)	2・3・4前・後			1			○							2	
	中国語 (読解)	2・3・4前・後			1			○							2	
	中国語 (会話)	2・3・4前・後			1			○							2	
	中国語 (総合)	2・3・4前・後			1			○							1	
	韓国語 (読解)	2・3・4前・後			1			○							2	
	韓国語 (会話)	2・3・4前・後			1			○							2	
	韓国語 (総合)	2・3・4前・後			1			○							3	
	中国と日本の文学文化 A	2・3・4前			2			○							1	
	中国と日本の文学文化 B	2・3・4前			2			○							1	
	ドイツの歴史と文化 A	2・3・4後			2			○							1	
	ドイツの歴史と文化 B	2・3・4後			2			○							1	
	小計 (29科目)	—	—		38			—							38	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(現代教養学部経済経営学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く) の教員	
ギリシア語・ラテン語科目	ギリシア語初級1	1・2・3・4前			1			○							1	隔年 隔年
	ギリシア語初級2	1・2・3・4後			1			○							1	
	ラテン語初級1	1・2・3・4前			1			○							1	
	ラテン語初級2	1・2・3・4後			1			○							1	
	ギリシア語中級	2・3・4後			1			○							1	
	ラテン語中級	2・3・4後			1			○							1	
	小計(6科目)	—	—		6			—							2	
A I・データサイエンス科目	DS・ICT入門I	1前	○	2			○								8	
	DS・ICT入門II	1後	○	2			○								10	
	DSのための数学入門	1・2・3・4前			2		○								2	
	コンピュータ・サイエンスI	1・2・3・4前			2		○								1	
	コンピュータ・サイエンスII	1・2・3・4後			2		○								1	
	情報と社会	2・3・4前			2		○								1	
	情報と職業	2・3・4後			2		○								1	
	ネットワークとセキュリティ	2・3・4前			2		○								1	
	小計(8科目)	—	—	4	12			—							18	
	DS基礎															
	DSのための微分積分入門I	1・2・3・4前			2		○								1	
	DSのための微分積分入門II	1・2・3・4後			2		○								1	
	DSのための線形代数入門I	1・2・3・4前			2		○								1	
	DSのための線形代数入門II	1・2・3・4後			2		○								1	
	DSのための確率	1・2・3・4後			2		○								1	
	DSのための統計	2・3・4前・後			2		○								2	
	データ分析	2・3・4後			2		○								1	
	DS基礎	2・3・4前・後			2		○								5	
	小計(8科目)	—	—		16			—							11	
	DE基礎															
	Rプログラミング	1・2・3・4前			2		○								1	
	Pythonプログラミング	1・2・3・4前・後			2		○								4	
	データハンドリングの基礎	2・3・4後			2		○								1	
	小計(3科目)	—	—		6			—							6	
	AI基礎															
	機械学習の基礎	2・3・4前			2		○								1	
	小計(1科目)	—	—		2			—							1	
早稲田大学連携科目	データ科学入門α	1・2・3・4後			1		○								1	
	データ科学入門β	1・2・3・4後			1		○								1	
	データ科学入門γ	2・3・4前			1		○								1	
	データ科学入門δ	2・3・4前			1		○								1	
	データ科学実践	2・3・4後			1		○								1	
	回帰と分類のデータ科学	3・4前			1		○								1	
	時系列構造のデータ科学	3・4前			1		○								1	
	潜在構造のデータ科学	3・4前			1		○								1	
	小計(8科目)	—	—		8			—							3	
学芸員課程科目	博物館概論	2前			2		○								1	
	博物館資料論	2前			2		○								1	
	博物館経営論	2・3後			2		○								1	
	博物館資料保存論	2・3前・後			2		○								1	
	博物館展示論	2・3後			2		○								1	
	博物館教育論	2・3前			2		○								1	
	生涯学習論	2・3・4後			2		○								1	
	博物館情報・メディア論	2・3・4前・後			2		○								1	
	博物館実習1	3前				1			○						2	
	博物館実習2	3後				1			○						2	
	博物館実習3	4通				1			○						1	
	小計(11科目)	—	—		16	3		—							7	
全学共通カリキュラム等合計(185科目)		—	—	19	278-293	3		—		8	2				200	
総合計(284科目)		—	—	59	414-429	3		—		11	2				223	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(現代教養学部経済経営学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)	
学位又は称号		学士 (教養)		学位又は学科の分野			経済学関係、社会学・社会福祉学関係									
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法							授業期間等									
卒業要件 4年以上在学し所定単位につき124単位以上を修得しなければならない。 修得すべき授業科目と単位数は、次のとおりとする。 (1) 知のかけはし科目 A (人文社会) 選択必修科目 6単位 B (自然科学) 選択必修科目 2単位 計8単位 (2) 女性の生きる力科目 必修科目 1単位 (3) キリスト教学科目 必修科目 4単位 (4) 第一外国語科目 ※ 必修科目 10単位 (5) 第二外国語科目 ※ 選択必修科目 3単位 (同一言語の初級1及び2) (6) AI・データサイエンス科目 必修科目 4単位 (7) 学科科目 (自学科) 必修科目40単位、選択必修科目20単位合わせて60単位 学科科目 (他学科) 10単位 (8) 自由選択科目 24単位 ※※ ※ただし、外国人正規課程留学生は、日本語を第一外国語として8単位、英語を第二外国語として6単位を修得する。 ※※ただし、外国正規課程留学生の修得すべき単位数は23単位とする。							1 学年の学期区分				2 学期					
							1 学期の授業期間				15週					
							1 時限の授業の標準時間				90分					
履修方法 履修科目の登録単位数の上限は、原則として1年間に40単位とする。 「*1」の範囲において12単位を修得しなければならない。 「*2」の範囲において8単位を修得しなければならない。 4年次に進級するには、前年度末までに、卒業に必要な単位数124単位のうち、所定の科目の単位を含む84単位を修得していなければならない。																

- (注)
- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
 - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
 - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
 - 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(現代教養学部経済経営学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学 科 科 目	入門		学科の15名の教員がチェーンレクチャー形式で1回ずつ担当するオムニバス授業。経済、経営、地域デザインの3つの分野について、それぞれの学問が何を目的とし、どのような理論や方法論を有し、それらがどのように社会課題の解決に貢献するのか、ということについて教授していく。経済、経営、地域デザインという3分野の融合体である本学科の特色を活かした構成となる。1年次の必修とすることで、全学生がすべての教員と一緒に学科講義の基礎的な知見を得ることを目指し、その後の専門科目の学習意欲を底上げする。 (オムニバス方式／全15回) (1. 関村 オリエ／1回) コミュニティとジェンダーの基礎を学ぶ (3. 竹内 健蔵／1回) 交通経済学、および公共経済学の基礎を学ぶ (4. 夢沼 宏一／1回) 財政学の基礎を学ぶ (5. 藤稿 亜矢子／1回) 環境問題の構造と対応する政策の基礎を学ぶ (6. 長谷川 克之／2回) 国際金融、および国際経済の基礎を学ぶ マクロ経済学、計量経済学の基礎を学ぶ (7. 二村 真理子／1回) ミクロ経済学の基礎と身近な問題への応用を学ぶ (9. 矢ヶ崎 紀子／2回) 観光政策と観光地域づくりの基礎を学ぶ 公共政策論の基礎を学ぶ (12. 小西 由樹子／2回) 人的資源管理論、およびキャリアの基礎を学ぶ 財務管理論の基礎を学ぶ (8. 松嶋 一成／3回) イノベーションにおける戦略と組織の基礎を学ぶ マーケティングの基礎を学ぶ (22. 初山真人／1回) まちづくり、およびコミュニティデザインの基礎を学ぶ	オムニバス方式
	(経済学)		経済全体の動きを大きく捉えようとするマクロ経済学に対して、ミクロ経済学は、消費者や企業による消費や生産という身近な経済活動を出発点として、希少な資源の有効活用という問題に対して市場がどのような働きをしているのかを分析するものである。「ミクロ経済学入門」では、経済学を専門としない学生も対象として、経済学的な考え方に慣れ親しむことから始める。その上で、基本的なミクロ経済学の知識を身に付け、現実の経済についての理解を深めることを目指す。	
			経済がグローバル化した今日では、一国で発生したマクロ経済問題が、瞬時に他国に影響を及ぼすことになる。そうしたマクロショックは金融システムや景気や雇用を通じて私たちの生活に影響を及ぼす。この授業の軸は、マクロ経済学の基礎的な概念と理論を学ぶことであるが、金融政策と財政政策の観点から日本経済が直面する諸問題と課題を理解することをも目指す。	
	(経営学)		まず、企業は社会においてどのような活動をしているのか、その企業の中ではどのような活動が行われているのか、という企業経営の全体像を説明する。その上で、戦略論、組織論、マーケティング、人的資源管理論、財務管理、生産管理など、経営学における各主要分野の基礎知識や理論を説明していく。また、企業経営の実態を深く理解する為に、理論を学ぶのみならず、実際の企業や組織の事例も題材とし、理論と実践の往復も多に行う。	
			マーケティングは、定義の進化と広い研究領域を持ち、経営での実践を併せ持つ、ダイナミックな学問である。近代マーケティングの構成は、マーケティング・マネジメントを中心に、マーケティング戦略、マーケティング・リサーチ、消費者行動論、プロダクト・マネジメント、広告論、流通論と、新しい展望領域（サービス、エコロジー等）に大別できる。この講義では、マーケティングを初めて学ぶ学生を対象に、近代マーケティング全体構成を把握し、実践的な例も交えながら、マーケティングの中核であるマーケティング・マネジメント、マーケティング戦略、プロダクト・マネジメントの理論の習得を目指す。	
	(地域デザイン)		中央政府や地方自治体、公共機関、非営利組織などにおいて、社会の諸課題の解決のために政策を構築、実践、評価していくプロセスを総合的に学ぶ。まずそれらに関連する理論を、経済学、行政学、法学、社会学などの視点から学んでいき、同様に、公共に関わる法律や規制、予算配分、市民参加などの現実的な実践ツールを理解していく。このように理論と実践の双方の知識を得ることにより、より良い政策とはどのようなものか、それはどのように実現可能なものか、について理解できるようになることを目指す。	
			まちづくりの理論と実践事例を学びながら、「まちづくりとコミュニティ」について考察していくことを目指している。社会学的な方法論を元にコミュニティの特性を理解し、参加型もしくは協働を重視したまちづくり手法を学ぶ。また、グループワークにおいては、地域の課題を分析し、ディスカッションを通じてまちづくりの基礎への理解を深めていく。最終的には、グループごとにまちづくりに関するアイデアをプレゼンテーションする。講義とグループワークを通じて、まちづくりの理論と実践を結びつけ、参加や協働の経験とコミュニケーション能力を磨くことを目指す。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	サステナビリティとグローバル共生	○	地球環境問題、グローバリズムによる資源の不公平な配分、従来の経済システムの限界、人権問題、格差社会、紛争など、さまざまな環境・社会・経済的要素が複雑に絡む現代において、それらが「サステナビリティ」および「共生社会」の実現にどのような関連しているかを学ぶ。「Sustainable Development（持続可能な開発）」という概念を正しく理解し、国内外の事例を通して、グローバルな課題がどのように地域社会と関連しているのか、また解決のための方法論にはどのようなものがあるのか、について社会学的な視点から議論を深めていき、自らその解決のために考えることができるようになることを目指す。	
基盤 講義 (経済学)	初級ミクロ経済学		「初級ミクロ経済学」では、ミクロ経済学の基礎的な考え方を一通り学んだ学生を対象として、家計の効用最大化行動、企業の利潤最大化行動に関する基本的な概念を扱う。さらに、応用として競争政策、環境問題などの現実の経済問題を随所で紹介することで、この分野に対する洞察を深めることを目指す。また、本授業では「中級ミクロ経済学」への準備として、ミクロ経済学的な考え方を定着させ、計算問題にも対応できる実力を身につけることを期待する。	
	初級マクロ経済学		「初級マクロ経済学」では、マクロ経済学入門の内容をふまえて、貨幣の機能と概念、貨幣需要関数、ハイパードマニーと貨幣の供給、利子率の決定理論、IS-LM分析と財政・金融政策、インフレーションと失業率、国際マクロ経済分析、経済成長理論（ハロッド＝ドーマーモデルと新古典派の成長理論）、景気循環と経済政策などを扱う。毎回、マクロ経済学の演習問題（経済学検定試験問題、公務員試験問題等）を解き、マクロ経済理論の理解が深まるよう配慮する。	
	経済の数学		「経済の数学」は、初級ミクロ経済学の知識を前提として、基本的な数学の手法を身につけることを目的とする。具体的には、微分や積分などの高校数学レベルまでの基礎、期待値や現在価値などの経済学的重要概念を学ぶことで、数学的視点からミクロ・マクロ経済学を理解することを目指す。本授業において数学はあくまで経済学を理解するための手段である。なお、難解な数学理論そのものを理解することまでは求めない。	
	統計学		「統計学」では、入門レベルの統計学を、毎回練習問題を解きながら、分かりやすく解説していく。具体的には、①変数の区別、②度数分布、③中心傾向の測度、④散らばりの測度、⑤ローレンツ曲線やジニ係数などのその他の測度などを取りあげる。そして、社会科学分野の統計データを自分自身で分析したり、解説するために必要な基礎的統計学の知識を習得することを目指す。	
	財政学		「財政学」は、租税や公債などによる財源調達（どのような方法で、何を基準に、何の名目で）をもとに、国民生活をささえる多岐にわたる政府の経済活動と、そのためにそれらをどのように効果的に用いるかについてを考察する学問である。講義では、公共投資や社会保障などの政府支出の経済的役割とその効果、租税を中心とする資金調達のあり方、さらには地方財政や国と地方の財政関係の役割などについて経済学をベースとした財政の分析を試みる。	
	公共経済学		市場メカニズムによる資源配分が行われた場合、不十分、もしくは不適切な結果が生じる場合がある。「公共経済学」では、このような市場の失敗の存在を理由として、公的に政策介入が必要とされる経済分野に関する理論を修得することを目的とする。本授業は、特定の産業に特化した議論を行うものではない。多様な経済政策を理解するための必須の経済理論を修得し、さまざまな政策の評価を行うための規範的分析について知識を深める。	
	経済政策		これまでに習得した経済学の基礎理論、ならびに政策分析の手法として有効な公共経済学の理論をもとに、それらを現実の経済問題に適用することを目的とする。市場の失敗を理由とした公的介入が必要とされる公益事業における価格、投資、補助、規制の問題、または一国の経済成長を促すための政策の背景にある経済モデルなどに関して、具体的な事例を示しながら議論を行う。	
(経営学)	経営戦略論		この講義では、経営戦略における基礎的な概念や理論を習得するとともに、実際に産業や企業を分析することで理解を深めていく。優れた戦略とは、極めて論理的であることが分かる。それゆえ、この授業では論理的な思考を重視する。最終的には、新聞や雑誌などでみる企業の事例について、なぜその企業（事業）の戦略は成功したのか、または失敗したのか、背後にどのような戦略の論理があったから成功したのか、逆にどのような論理が欠如していたから失敗したのかを考えていく。なお、概念や理論の習得と現実の問題への応用の為に、授業中に事例を用いた分析やケース・ディスカッションも行う。	
	経営組織論		組織のマネジメントを考えた場合、組織目標の達成に向けてエネルギーを引き出すべく組織内の人材へ働きかけると同時に、昨今の変化の激しい組織外の環境へ上手く適応するべく組織の仕組みを設計することが重要となる。したがって、この講義では、個人の動機づけなどといったミクロの組織論から、組織設計を考えるマクロの組織論までを対象とする。それらの主要な理論や概念を習得し、応用しながら、実際に組織を運営するマネージャーの視点をもって組織の問題を考えて分析していく。なお、概念や理論の習得と現実の問題への応用の為に、授業中に事例を用いた分析やケース・ディスカッションも行う。	
	会計学基礎		会計は、企業経営や世の中の経済的事象を分析する際に必要な知識である。会計情報は、企業内部はもちろん、投資家、債権者、取引先、税務当局などの企業外部の利害関係者に対して、企業の経済活動の実態を報告することを目的とした情報である。この講義では、会計の基礎的な理論の枠組みを理解した上で、企業が公表する会計情報に基づき、企業の経営実態を分析する能力を身につけることを目的とする。	
	ファイナンス基礎		この講義では、企業のファイナンスの基礎を学ぶ。企業の投資、資金調達、利益還元、企業価値の評価に関する、いわゆるコーポレート・ファイナンスの基礎的な理論を習得した上で、企業価値の向上のための様々な財務的な意思決定について理解する。具体的には、投資の意思決定、資金調達の意思決定、利益還元の意思決定を取り上げる。最終的には、コーポレート・ファイナンスの観点から企業の経営実態が理解できる能力を身につけることを目的とする。	
(地域デザイン)	コミュニティと情報メディア		多様化する（多義化する）メディアについての近年の捉え方を参考にしながら、メディアとコミュニティの関係性を考えることを目的とする。また、CMやマスメディアなどの情報メディアについては、昨今、ジェンダーの視点から考えることの有効性が指摘されていることを踏まえ、CMをめぐるジェンダーイメージ、メディアスポーツの消費とコミュニティ、インターネット空間における女性ユーザーの居心地の悪さなど、ジェンダーの視点を通じてメディアとコミュニティを捉え直すことも目指す。また地域コミュニティはもとより、メディアが生み出す新たなコミュニティも視野に入れながら、メディアとコミュニティについて社会学的な視点から分析し、理解していく。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
発展講義 (経済学)	官民パートナーシップ		共創が重視される現代社会において欠かせない官民パートナーシップ (Public-Private Partnership: 以下PPP) とは何か、まずその定義や目的、課題、手法、基本原則、種類などを理解することを目的とする。その上で、PPPの実践を理解するために、先進事例また失敗事例を国内外から学び、欠かせない要素や課題について学生自らが抽出できるようにする。さらに地域社会でPPPを実践するに当たって重要な法的手続き、資金調達などの仕組みを学んでいく。また社会学の方法論を用いて、PPPの効果を評価する手法も学ぶことで、地域社会に貢献するPPPのあり方を提案できるようになることを目指す。	
	観光法制度論		観光立国推進基本法、旅行業法、旅館業法、通訳案内士法、休暇・休日に関する法制度、景観・歴史まちづくりに関する法制度などの観光関連の法規・制度の概要について講義し、観光行政、観光ビジネス、観光地域づくりを理解する土台となる知識を習得することを目的とする。あわせて、観光法制度の変遷や最新の動きを具体的な事例を通じて分析し、法制度、ビジネス・産業、地域が互いに影響を及ぼしあう、動的な関わりがあることを講義する。	
	経済史		現代経済の基盤である市場経済の成立と変容を、世界市場との関連を意識しながら概観する。講義内容は、1. イギリスを中心にした西ヨーロッパにおける市場経済の成立プロセスを、工業資本と商業資本双方の役割に焦点を当て解説する。2. 現代経済の原型ともいえるアメリカにおける市場経済の発展を考察する。3. 開港期から高度成長に至る日本経済の発展を、後発国の市場経済化の問題として検討する、の3つの部分に分かれる。いずれのケースでも、生産分野での変化が消費者の生活をどのように変化したのかという点にも着目する。	
	中級ミクロ経済学		ミクロ経済学の初級程度の知識を持つ学生を対象に、ミクロ経済学理論を数学的にとらえ直し、より多面的に、より深くミクロ経済学を理解することを基本的な目的とする。この科目でいう「ミクロ経済学」とは、「マクロ経済学」と双璧をなす「理論経済学」であり、経済学を専攻する学生は必ず知っていなくてはならない基礎理論のことである。この基礎理論を習得することにより、経済学の方法論に基づいた社会問題の分析能力を養成する。オーソドックスなミクロ経済学の構成にしたがって講義は展開される。	
	中級マクロ経済学		「初級マクロ経済学」を学んだ学生を対象に、中級レベルのマクロ経済学について、発展的に学ぶ。講義は、①初級レベルのマクロ経済学の復習、②国民経済計算の考え方と方法、③GDPの決定理論、④IS-LM分析(生産物市場の均衡とIS曲線、貨幣市場の均衡とLM曲線)、⑤AD-AS分析(総需要・総供給モデル)、⑥経済成長理論、⑦国際マクロ経済、⑧環境経済学、⑨日本経済の分析、⑩経済学の諸問題、の順に進めていく。	
	日本経済論		日本経済のグローバル化が進む中で、地域経済や地方公共団体が行う地域政策や財政政策の果たすべき課題や役割に関して経済学的視点から考察を行う。まず、戦後の日本経済の発展において、地域経済や地域政策の果たしてきた役割について学習を行った後、地域政策のあり方を経済学的視点から考える。そこでは、都市規模の決定に関する経済理論や、地域独占、外部性、地方公共財等の「市場の失敗」理論などを学ぶことにより、開かれた経済活動における地域経済と経済政策のあり方を考える。続いて、こうした地域政策を効率的に進めるにあたって、国および地方公共団体(地方政府)はいかなる形で公共サービスの提供や政策的コミットメントをすべきなのか、地方財政および財政ガバナンスの学習を通して地方公共団体の役割や「政府の失敗」の課題を考える。	
	国際経済学		国境を越えるヒト、モノ、カネ。私たちはいやおうなく進行する市場経済化とグローバル化のただ中にいる。この講義では、国際金融の基本的な概念、理論、制度を学びながら、戦後の国際金融史上に残る巨大なマクロ経済ショックの事例を分析し、現代的な経済危機への対策を考える。また、多様化するデリバティブ、巨大化するファンド、複雑化する証券化商品、会計基準の国際標準化、IMFの役割など、現代の国際金融を大きく揺さぶるアクターの動向に注目する。	
	開発経済学Ⅰ		開発経済学は、人々の生活や人生に多大な影響を及ぼす貧困や経済格差の問題を扱い、その原因を一国及び地球規模で分析し、より良い経済発展の方法を探るための学問である。「開発経済学Ⅰ」では、貧困や格差の計測手法と開発理論の発展過程を学ぶ。適宜事例研究をもちこみ、実態の紹介も行う。また、ガバナンス(行政機構の規律と能力)の欠落、民主主義と法の支配、ジェンダー(社会的文化的性別)、環境破壊、紛争といった今日の問題との関連を検討する。	
	計量経済学		統計解析ソフトウェアを用いて、統計分析を実践する方法を講義する。中心的傾向の測定、散らばりの測定から出発し、確率変数と確率分布、平均や比率などの推定とその検定、さまざまな種類の相関係数とその検定、回帰分析まで取り上げる。卒業論文の作成に役立つよう、毎回さまざまなデータを使用した分析を行う。なお、講義は、受講学生が統計学、コンピュータに対する知識を持たないという前提で進めるものとし、毎回、情報処理教室で行う。	
	環境経済学		環境問題をミクロ経済学の枠組みにあてはめることにより、問題発生メカニズムや解決のための政策手法について学ぶことを目的とする。また、四大鉱害や四大公害など我が国で発生した環境問題や、気候変動問題について、歴史的背景、経済的背景から発生メカニズムを理解し、さらにこれらの問題に対する国内外で行われている諸政策について知識を深める。本講義では経済学の考え方にに基づき、発生した問題を最小の費用で解決し、持続可能な発展を実現するための手法を模索する。	
	労働経済学		「労働経済学」では、「働くこと」とは何かに焦点を当て、その諸側面を家計・企業・一国の経済現象の中で包括的に捉えることを目的とする。基本的な理論枠組みを理解し検証するためには、それにふさわしい新しい資料や統計手法が求められる。そのため講義ではできるだけ、現実の社会に見られる労働の具体的な諸現象を題材にして、新しい資料や統計手法の紹介も含めて労働経済学のトピックスを取り上げていく。特に女性労働に焦点を当て、女性が労働者として直面する現状と課題を理論と実証研究の両面から講義する。	
	金融論		金融は経済活動の血液とも言われ、経済と表裏一体である。私たちが経済活動を営む際に、そして実りある人生を送る上でも金融に関するリテラシーを高めることは不可欠である。本講義では、まず、株式や債券などの金融商品の価格決定理論やポートフォリオ理論などを踏まえた上で、金融市場の仕組みに対する理解を深めていく。コーポレートファイナンス理論を学びつつ、企業による様々な資金調達手法とその経済・金融システムにおける意義を学ぶことも現代の金融論における重要な論点である。また、「人生100年時代」とも言われる中で、企業だけでなく私たち個人にとつての、ライフステージに応じた資金の調達や運用のあり方についても学ぶこととする。加えて、金融機関経営を取り巻く様々な論点や課題、気候変動問題やデジタル化による金融ビジネスモデルへの影響についても多面的に検討したい。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	産業組織論		産業組織論は反独占政策の基礎理論として発展した応用ミクロ経済学の一分野であり、市場構造と市場成果の関連をめぐって、ハーヴァード学派とシカゴ学派のあいだで激しい論争が繰り広げられてきた。この講義では、第3の潮流として1970年代に一躍主流派に躍り出た、ゲーム理論の成果を取り入れた新しい産業組織論（New Industrial Organization Theory）の基本事項を学び、企業の戦略的参入阻止ゲームを考察する。さらに、コンテストナブル市場の理論を概観し、ネットワーク経済について考える。	
	ゲームの理論		ゲーム理論は、集団において、何らかのルールに従って行動する複数の主体の意思決定が戦略的に相互に影響を及ぼし合う状況を分析する。この主体間の相互依存関係を取り扱うゲーム理論は、経済学にとどまらず、経営学、政治学、社会学、さらに生物学等、広範な分野で有効な分析道具となっている。とりわけ、不完全競争市場における企業等の戦略的行動を分析するミクロ経済学の習得には必須であろう。この授業では、身近な経済の例を用いて、わかり易く解説する。	
	企業の経済学		「企業の経済学」は現代社会の企業行動そのものを対象とするミクロ経済学の応用分野である。企業の経営戦略を経済学的に理解することを目的として、事業の多角化戦略や国際展開、また、我が国のさまざまな産業、中でも寡占市場における企業間競争の仕組みなどについて理解を深める。価格による競争、差別化による競争、参入阻止戦略など、具体的な企業戦略の事例を交えて説明することで、経営学と経済学との橋渡しをする授業である。	隔年
	都市・地域経済学		都市の空間的経済構造に対してミクロ経済学の分析手法を用いて理解することを目的とする。まず、都市の成立、発展の諸要因について知識を深め、経済活動の立地と土地利用に関する理論を学ぶ。さらに、現代社会が抱える土地問題、住宅問題、都市交通問題などの個別のテーマについて知識を深め、この諸問題に対する政府の役割について考える。必要に応じて地域分権化の流れを受けたまちづくりの現状や都市の設計等、日本の地域や都市の現状についても具体的に言及する。	
	ジェンダーの経済学		この授業では、主流派経済学が構築した理論やそれに基づいて構築された諸制度に関して、ジェンダー視点から分析するための方法を学んでいく。まずフェミニスト経済学の分析視角や理論展開を学び、その理論を実証分析に活用する方法を検討する。具体的には、GDPや失業といった概念の見直し、統計の問題、家庭内における利害対立及び意思決定のゆがみ、性と生殖および結婚に関する行動、人口問題、政策の帰着分析などを取り上げる。	隔年
	福祉の経済学		少子高齢化の進展による介護の問題や育児の問題、格差の問題、ワーキングプアの問題など、福祉に関わる問題はより深刻になりつつある。この講義では、経済学の考え方に基づいて、これらの問題を感情的にではなく、論理的に冷静にとらえることによって、問題の本質を分析し、政策提言に結びつけていくことを目的とする。そのためには市場の失敗や所得分配の公正の理論など、発展的な分野での経済学の学習が必要であるので、これらとも併せて考察する。	隔年
	現代経済論		現代日本を取り巻く経済問題はより一層複雑になってきている。こうした経済問題に対する処方箋として提案される主張は百家争鳴の感があり、正反対の主張がなされることもある。本授業においては、これらのさまざまな提案される主張を整理するために、経済学の考え方を活用し、経済学の観点からそれらの主張の本質を明らかにすることを目標としている。本授業を履修することによって、一見複雑に見える多くの提案の内容を解きほぐす能力を身につけることを目指す。	隔年
	新興地域経済論		「新興地域経済論」は、主に現代のアフリカとラテンアメリカを対象として、同地域の社会が直面する諸問題を分析・提示し、その生成と変化の要因を理解することを目的とする。豊かな資源に恵まれながら紛争や感染症や環境破壊の影響を受けるアフリカ地域や、米国の影響下からの脱却を図ろうとするラテンアメリカ地域などを取り上げ、これらの地域の歴史的背景、実体経済と金融、経済の現況と経済政策の方向性、世界経済へのインパクトを考察する。	隔年
	アジア地域経済論		「アジア地域経済論」は、世界第2位の経済大国となった中国、堅調な成長を続けるインド、経済成長著しい東南アジア諸国、そして日本、韓国を含めた東アジア地域の経済について学ぶことを目的とする。経済成長を遂げた国々における経済、社会の変容、これから発展が予想される国々への各国の支援など、幅広い議論を行うことで各国経済の現状に対する理解を深めることを目指す。	隔年
	国際地域経済論		「国際地域経済論」は、欧米諸国の経済政策を中心に、その歴史的、文化的背景とともに理解を深めることを目的とする。具体的には米国における需要サイド重視の経済学から供給サイド重視の経済学へと移行した戦後の経済政策について、EUについては経済統合とその後の拡大、英国の脱退など、現状と直面する問題について扱う。このような議論を行うにあたり、地域の政治的制度や歴史的背景を展望する。	
	日本経済史		この講義では、近世から近代の日本を対象に、経済成長とその源泉、成長のプロセスと帰結を、比較史的に検討する。日本経済の成長プロセスを追うことによって、経済発展論の基本概念を学ぶとともに、それらの概念を比較史の文脈で理解することがこの講義の目標である。具体的には、国際経済の枠組みの中での先進経済とのかかわり、政府の果たした役割、在来産業と近代産業および都市と農村との関連、資本・労働・スキルの変化などを検討する。	隔年
	保険論		私たちの生活は、交通事故、火災、地震、疾病、高齢化など様々なリスクにさらされている。これらのリスクから私たちを守るために、保険は必要不可欠な存在である。この授業では、保険の意義と役割について、リスクマネジメントと保険、私保険と社会保険、保険料のしくみといった基礎から解説し、火災保険・自動車保険・第三分野の保険（医療・傷害・介護）・生命保険（年金を含む）の意義と役割を考察し、最近の保険業の動向と問題点を検討する。	
	証券論		「貯蓄から投資へ」の流れの中で、証券市場を取り巻く環境は大きく変わってきている。この授業では、証券市場が私たちの生活・ライフプランにどのように関わっているのかを具体的に検討する。まず、金融・証券の基礎知識を解説し、証券市場の役割とその歴史の変遷を概観する。次に、証券関連規制の緩和が証券会社に及ぼした影響や、個人投資家の増大が証券市場に及ぼした影響など、最近の変化を踏まえた上で、証券投資の心構え、資産運用について学習する。	
	（経営学） 経営管理論		経営管理とは、一般的には企業などの経営組織が、ヒト、モノ、カネ、情報といった経営資源を用いて、組織の目的を達成しようとする活動を指す。この講義では、主に「組織」と「ヒト」に関する管理の方法に関する理論や概念を主に取り扱う。具体的には、まず、古典的な経営管理論の系譜を辿り、現在に至るまでに構築された理論や概念に関する大きな流れを学ぶ。その上で、近年注目されている主要なトピックを中心に、管理する側である「組織」と管理される側の「ヒト」の双方の視点から考察する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人的資源管理論		この講義では、人的資源管理の基礎を学ぶ。人的資源管理は、組織内で人材を活用し成長させるための重要な考え方である。講義では、人的資源管理の歴史の変遷や基本的な役割・機能を学ぶ。さらに、組織が従業員を採用・育成・評価・報酬・労働関係の面でどのように管理するかを学ぶ。効果的な採用プロセスや人材戦略、従業員の成長やトレーニングの重要性、労働法や報酬制度にも触れる。また、給与制度や福利厚生、労働環境の管理についても学ぶ。講義を通じて組織の考え方を理解し、将来の就職活動やキャリア形成に役立てられるようにすることを目標とする。	
	消費者行動論		消費者はどのようにしてモノやサービス、ブランドを選択し、消費するのか。消費者の行動を理解することは、企業がマーケティング戦略を策定し実践していく上で重要な知見となる。この講義では、消費者行動論の基礎的な知識や理論を習得した上で、購買意思決定に影響を与える消費者個人の行動原理や心理的な機能やプロセスについて、実践的な事例も交えながら検討する。	
	ブランド論		先進国では消費財が市場に多く存在し、企業間の競争環境も激しくなる中で、ブランディングが重要なマネジメント要素になっている。この講義では、マーケティングについての基礎的な理解を前提として、企業のブランドのマネジメントを検討する。具体的には、ブランドの創出、市場での浸透、維持、そして拡大といったブランディングの活動の理論を体系的に学び、演習やグループワークを通して実践的な知識の運用も目指す。	
	流通論		この講義では、モノ（具体的な商品）の生産から消費に至る基本的な流通のプロセスを取り扱う。特に流通の基本的機能を理解した上で、流通業（小売業・卸売業）の実態、そこで行われている活動について検討する。現代は、グローバル化、情報化などによって市場環境が変化している。例えば、外資系企業やオンライン店舗の市場参入は日本の流通を大きく変えつつある。この講義では、流通に関する基本的な理論を踏まえて、そうした近年の具体的な動向についても分析できる能力を育成する。	
	組織行動論		組織行動論とは、組織内における人間の行動について、個人・集団・組織行動に分類し、組織全体の生産性や業績を向上させる知見を提供する学問である。この講義では、組織心理学や社会学、進化心理学などの知見も横断的に整理しながら、組織行動論の理論について体系的に学ぶ。また、組織内で起こり得る多様な問題について、事例を引用しながら理解することにより、実務においてそれらの原因を特定し適切に解決する能力の習得を目指す。	
	リーダーシップ論		現代のリーダーは、環境の変化に対応しながら、様々な利害関係者と協働し、多様なメンバーの能力を最大化させ、業績を達成することが期待されている。この講義では、時代とともに進化してきたリーダーシップに関係する様々な理論を理解した上で、経営者や管理職に求められる、あるべき姿や考え方、実践的な技術も習得していく。受講生自身のリーダーシップを強化する様々な演習にも取り組んでいくことで、理論と実践の両立を目指す。なお、この講義は全て英語で行う。	
	財務管理論		ヒト・モノ・カネ・情報の経営資源のうち、財務管理とは企業の「カネ」についてのマネジメントを指す。この講義では、ファイナンスの基礎科目で学んだ知見を基に、企業の資金調達と運用、経営の財務的側面の数量的な管理や評価、および成果の分配、それらに対する意思決定について学ぶ。さらに、株式の評価、多様化する資金調達の手段、配当政策、M&A、ストック・オプション、ポートフォリオ、株式の相互持ち合いといった問題も扱う。最終的には、企業の管理者の視点から財務の問題を考え、分析できるようになることを目指す。	
	簿記論		この科目でいう簿記とは「複式簿記」をいう。複式簿記とは企業の経営活動を貨幣という共通尺度を用いて、記録、計算、作表する世界共通の技術体系である。会計学関係のみならず経営学関係の科目を学ぶ際の基礎となる科目である。具体的には複式簿記原理の理解、勘定科目ごとの仕訳処理、帳簿の種類と記帳の理解、決算時の仕訳処理、試算表や精算表の作成、損益計算書や貸借対照表の作成等を学習する。企業形態としては個人商店を前提とし、複式簿記の基礎的理解と技術を修得することを目標とする。	
	財務会計		「財務会計」とは、株式会社において株主にその会社の資産状況や経営状況を報告し、政府に対しては納税に関する報告をするために必要な会計上の方法である。この講義では、簿記の基本的な考え方を身につけているという前提で、会計制度や会計基準の説明からはじめて、財務会計の基本的な方法論、そして財務諸表等を通じて企業の実態を見極めるスキルを養成する。	
	管理会計		「管理会計」とは、企業がより良い成果を上げるために、会計データをどのように加工し、読みこなし、経営に活用するかを取り扱う「財務会計」に対応した分野である。経営上のデータを漫然と眺めることなく、企業経営に役立てるためのノウハウを修得する。具体的には原価計算の手法、投資計画の立て方、企業の各部門の経営パフォーマンスの測定手法などについて取り扱う。	
	監査論		この講義で取り上げる監査とは、株式公開会社の財務諸表の信頼性を保証する財務諸表監査である。講義では、監査の全体像を理解できるよう、財務諸表監査の基礎概念や理論と共に、監査の必要性、基本的な役割、法規制や制度やその実務を説明する。特に実務については、企業の業務プロセスにおける具体的な監査の実務にも触れながら、社会における会計監査の意義を深く理解することを旨とする。なお、この講義の受講の際には、財務会計の基礎的な知識があることが望ましい。	
	国際経営		国内市場の成熟化や、新興国市場の急速な成長などの経営環境の変化により、国境を越えた事業活動がますます重要となっている。この講義では、まず、企業活動の国際化と、国際的広がりをもつ経営のあり方を、戦略、組織、マーケティング、生産、研究開発、人的資源管理、財務などの理論的な視点から説明する。その上で、以前より国際化が進んでいた自動車産業、エレクトロニクス産業などの製造業や、近年になって国際化が顕著な流通・サービス産業など、様々な産業での国際経営の事例について検討していく。	
	コーポレートガバナンス		企業が持続的に成長していくためには、コーポレートガバナンス（企業統治）を適切に機能させる仕組みと運用が必須である。現代の企業は、株主価値を向上させるだけでなく、地域や社会への貢献や倫理的な経営が求められる社会的な存在となっている。この講義では、企業統治のあるべき姿や実態、今後の課題について、当局の要請や議決権行使助言基準の強化、機関投資家の視点も踏まえながら、経営者目線のコーポレートガバナンスを学ぶ。	
	イノベーションマネジメント		この講義では、経済的価値をもたらすイノベーションが創出され、社会に広く普及するプロセスを、戦略論、組織論、マーケティング、さらには経営学を超えて、経済学や社会学の観点から検討していく。なぜ、このイノベーション活動は成功して、成果が経済や社会に大きなインパクトをもたらしたのか（逆に失敗したのか）、そこにはどのような論理があったのかを考える。特に近年注目されている主要なトピックとして、オープンイノベーション、産学官連携、プラットフォーム、地域イノベーションなどの問題も扱う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
(地域 デザイン)	起業論		この講義は、起業論を初めて学ぶ学生を対象として、その基本的な考え方を学修することを目的とする。具体的には以下の2点についての学修を行う。第1に、独立起業だけを対象とするのではない、アントレプレナーシップ（企業家精神）という考え方の広がりを学び、アントレプレナーシップの基本概念に関する理論や分析フレームワークを習得する。その際、企業家（起業家）の事例を適宜取り上げることで、起業活動の特質を検討する。第2に、起業と経済活動との関係を理解した上で、事業機会の発見やビジネスアイデアの創出から、ビジネスモデルの構築、資金調達などに至るまでの、起業プロセスの全体像とそれに関わる経営学関連分野の諸理論・概念について学修する。	
	中小企業論		メディアは大企業に注目を集めがちだが、グローバルニッチトップ企業のような優れた中小企業も決して少なくない。特に製品やサービスの開発において、創造的な中小企業が数多く観察される。この講義では、そのような創造的日本企業（主に中小企業だが理解のため大企業との比較検討を含む）について、経営学の予備知識からじっくり考察を加え、実務に携わる企業人（経営者・実務家）を招いて実体験を伺う機会も設けながら、受講者の社会的活動の現場で活用可能な教養を深めることを目標とする。	
	ソーシャルビジネス論		現在はグローバルレベルで持続可能な経済・社会のあり方が問われている。そのような経済、社会の中では、企業に期待される役割や責任(CSR)も変化しつつある。企業のガバナンスにおいても、株主や従業員との関係性の議論を超えて、広くステイクホルダーを捉えた上で、社会や法制度との関係性を考える必要がある。この講義では、そうした視点を持ち、実際の現在の企業が抱える社会的問題を、具体的な事例も用いながら検討していく。	
	環境経営論		この講義では、環境問題と企業経営の関係性を扱う。現在は、環境問題への対応は企業にとってコストではなく、新たな事業機会を見出し、競争優位性に結びつくといった、より積極的な視点から社会課題の解決と利益の追求を両立させる考え方が定着してきている。こうした視点を概念的に理解した上で、この講義では企業の環境問題への対応をテーマに、特にCSV経営やESG経営について実際の企業の事例を交えながら検討していく。	
	経営史		この講義では、経営の歴史を学ぶことで、資本主義の発展の歴史およびそれに貢献した企業家の役割や機能について考察する。特に企業家が自身の企業の成長のみならず、どのように産業の発展に寄与し、社会や経済に大きなインパクトをもたらしたのかについて、その歴史のプロセスを理解する。経営の歴史を学ぶことは、今後の企業の発展を担う企業家にとっても重要なインプリケーションともなる。	隔年
	実践的研究計画法（研究計画）		専門科目の履修、主題化の方法、勉学の進め方などについて、ワークショップ形式で学ぶことで、教養の知と実践の知を結びつけるための手がかりとする。実践的研究計画法（研究計画）では、研究計画の立て方、その総括のしかたについて学ぶ。1年生は、1年前期の学びの上に、2年次以降の学びをどう構成するか、について計画を練る。互いの学びを確認し合い、学びの現状を社会的な方法論によって評価する。さらに上級生や教員などへのヒアリングなどをもとに、学びの計画をたてる。	
	実践的研究計画法（研究構想）		専門科目の履修、主題化の方法、勉学の進め方などについて、ワークショップ形式で学ぶことで、教養の知と実践の知を結びつけるための手がかりとする。実践的研究計画法（研究構想）では、研究構想の立て方、その総括のしかたについて学ぶ。1年生は、1年前期の学びの上に、2年次以降の学びをどう構成するか、について具体的にデザインし、グループワークによって互いの学びを確認し合い、学びの現状をチェックする。さらに上級生や教員などへのヒアリングなどをもとに、学びの構想を練る。	
	コミュニティ調査実習（企画・立案・設計）		自己形成、市民参加、ケアやサポート、イノベーション、共生とツーリズムなどの実践領域において社会調査を行うことの意味とは何かについて考察するとともに、各領域で採用される社会的な調査方法の基礎について学ぶ。各領域における調査の方法論や調査報告書などの先行研究を読み解き、社会的調査計画の立案、調査票の設計などの方法論を理解する。その上で、学生自らが、実際に社会調査を設計し、実施していく。こうしたプロセスを経て、社会学の理論と調査の方法論を学び、それを自ら実践できるようになることを目指す。	
	コミュニティ調査実習（実査と分析）		自己形成、市民参加、ケアやサポート、イノベーション、共生とツーリズムなどの領域における調査研究の理念、方法論などの理解に基づき、学生自らによって計画された調査、設計された調査票をもとに、調査研究を実施していく。調査結果データを整理し、分析を行う。採用する調査方法の特徴を理解し、結果の解釈、報告書の作成まで一連の社会的調査法を実習を通して習得していくことを目指す。自ら質問票の設計、聞き取り調査、データの加工などを行うことで、社会調査の方法を卒業研究に用いるための準備とする。	
	地域政策とまちづくり		近代日本における地域政策の歴史を概観した上で、地域政策の理論とその実践事例について講義する。実践事例の講義では、具体的な政策手法や政策評価の方法などを学び、地域の課題解決に必要なスキルを理解する。講義内容についてグループワークによる知識の整理と議論を行うことによって、地域政策とまちづくりの関係について理解を深める。さらに、学生自らがグループワークを通じて地域の課題を分析し、まちづくりのアイデアやそれを実現させるための政策をプレゼンテーションによって提案する。これらを通じて、まちづくりの理論と実践を結びつけ、参加や協働の経験をし、コミュニケーション能力も磨くことを目指す。	
	コミュニティとジェンダー		少子高齢化やグローバル化の影響下にある日本の都市空間においては、近代家族の概念に下支えされた性別役割分業が終焉を迎えつつある。本授業では、コミュニティにおいて展開される住民の生活実践、そして、これらを通じたコミュニティ内外の関係性の変化について、ジェンダーの視点から考察していく。また、自己、家族、地域、学校、職場、国家、国際社会などのさまざまな文脈において生じるジェンダー問題について、社会的な理解を深め、より良いコミュニティの構築には何が必要なのかを提案できるようになることを目指す。	隔年
	創造都市論		都市の創造性と文化的魅力を社会的な視点から探究していく。創造都市論の考え方を学んだ上で、都市の文化遺産やクリエイティブ産業の役割を探求し、それらが都市のイノベーションや経済発展に与える影響についての理解を深めていく。また、グループワークを導入し、創造都市論の核心的な理論を理解した上で、都市における創造的なプロセスやポテンシャルを具体的に学生自ら考察していく。こうしたプロセスによって、創造都市論の理論と実践を結びつけると同時に、協働やコミュニケーション能力も磨いていくことを目指す。	
	余暇ツーリズム論		国や地域を支える重要な手段としてのツーリズムの特徴・可能性・課題について理解を深めることを目的とする。ツーリズムの定義、観光経済や観光消費行動の特徴、観光産業や観光ビジネスの特徴と動向、観光振興がもたらす国・地域への社会的・経済的な影響、国や自治体の観光政策の変遷と最新動向について講義する。ツーリズムにおける新しい動向についても事例を用いて講義を行い、これらを通じて、ツーリズムをどのように振興していくべきか、観光地に負荷をかけない望ましい旅行行動とは何か、地域コミュニティと観光の関係はどうあるべきかについて考察する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ツーリズムとジェンダー		近年、観光産業の促進にともなう地域資源の開発や、インバウンド政策などが国家的優先課題としても注目されている。この授業の目的は、こうしたツーリズムをめぐる基本的な議論を足掛かりに、ジェンダーの視点から考えることである。ジェンダーの視点は、従来よりツーリズムにとっても重要なものとして社会的に分析がなされてきた。たとえば、地域資源へのアクセス権に男女差があること、観光産業の利益配分などにおけるジェンダー格差、さらにはツーリストに訴えかけるツーリズムそのものにジェンダーのイメージ演出があることなど、こうした現象を事例としてジェンダーの視点を通じてツーリズムを捉えることを目指す。さらにツーリズムと女性たちの関わり、観光産業に関わる女性たちの意味などについて考察していく。	
	地域社会論		日本の社会学は、日本の伝統的な地域社会構造、現代日本の地方都市や中山間地域社会のかかえる問題を明らかにし、他方で高度経済成長以降の日本の地域社会の変動、現代の大都市のかかえる諸問題などを考察してきた。さらに、現代社会のグローバル化をふまえた、新しい研究が展開され始めている。すなわち、地域の衰退（限界集落、離村、廃村など）、都市貧困層（若64年未就労者、高齢者、エスニックマイノリティなど）の増大などが問題となり、解決のために自立支援と共生社会開発の方法が模索されている。こうした地域社会研究、地域文化研究などの成果を紹介しながら、グローバル化する地域社会の問題を考察する。	
	サステナビリティと地域社会		地球環境問題、資源の不公平な配分、人権問題、格差社会、従来の経済システムの限界など、さまざまな環境・社会・経済的問題をグローバルな視点で理解した上で、それらがどのようにローカル（地域的）な課題と関連しているのかを学んでいく。また、そうした課題解決に地域社会がどのような役割を果たせるのか、社会的な視点から議論し、考察していく。英語の教材と英語での対話を全授業に取り入れ、世界の共通語で諸外国の人たちともそれらの知見について議論ができるようになることを目指す。	
	ソーシャル・キャピタル論		信頼、道徳、規範、習慣、ネットワークなどのさまざまな人と人とのつながりをあらわすソーシャル・キャピタル概念を、コミュニティ構想、コミュニティ資源という観点から考える。経済、経営、地域デザインに関わる社会科学の理論を用い、資源動員の実践の現況について概観し、福祉、教育、政治、企業経営など、さまざまな社会問題との関わりで論じられているソーシャル・キャピタルの主要キーワードを理解する。さらに、コミュニティ実践、国際比較の視点を踏まえつつ、事例的な分析、考察を行う。	
	コミュニティデザイン論		コミュニティにおける共創を通じたデザイン手法に焦点を当て、その理論と実践方法を理解する。現代のコミュニティデザインに欠かせないワークショップ手法をはじめ、参加型を促進するプロセスやファシリテーション技術、多様なステークホルダーとのコミュニケーション手法についても学ぶ。さらにグループワークを通じて、ワークショップの実施方法を実践的に習得していき、ステークホルダーとの協力やコミュニティ内での関係構築のスキルの基礎を身に付けていくことを目指す。これらのプロセスの中で学生自らが気づいた課題を社会的視点から分析し、その解決方法を検討することによって、課題解決能力も醸成していく。	
	地理学とジェンダー		人文地理学において蓄積された研究成果を通じて、多様な人々を包摂する場所、空間、社会の構築について考える。社会には多様なアクターが存在するが、女性をはじめマイノリティなど可視化されない人びとも多く存在する。本授業では、都市や農村などのさまざまな場所、空間におけるこうした人びとの意思決定や実践、資源や情報へのアクセスなどに焦点を当てながら、人びとと場所・空間との関わり、場所や空間の変化、そこで生み出される可能性と課題についてジェンダー地理学の視点から学んでいくことで、こうした社会課題の解決策について考察、提案できるようになることを目指す。	隔年
	インバウンド・ツーリズム論		インバウンド・ツーリズム（訪日外国人旅行者誘致）に関する基礎知識、世界の国々がインバウンド・ツーリズムに積極的に取り組む理由と状況、インバウンド市場の国際競争の実態、わが国のブランディングとプロモーション、商品造成・流通構造、国内外のインバウンド観光政策、地域における取組について、具体的な事例を用いて講義する。また、インバウンド・ツーリズムに関する様々なデータを活用し、訪日外国人旅行者のプロフィール、インバウンド・ツーリズムが及ぼす社会的・経済的影響や課題を分析する。	
	持続可能な観光地域づくり		人口減少、少子高齢化に加えて、グローバル化したわが国の都市や観光地には、急激な市場環境の変化に対応しつつ、持続的かつ安定的な経営が求められている。持続可能な観光地域づくりを実現させるためには、地域全体をマネジメントする観光地経営の導入が世界の潮流となっており、その舵取り役としてDMO（Destination Management Organization）の活躍が必須である。観光分野における持続可能性とは何か、観光地域経営としてどのような取り組みが行われているのか、国内外のDMOの具体的な取り組みとはどのようなものかを分析し講義する。	
	環境政策概論		公害問題から自然破壊、気候変動にいたるまでさまざまな形態とスケールで発生する環境問題に対しては、法律による規制のほか、ボランティアな市民参加を活かした制度、経済的インセンティブを活かした制度など、さまざまな法制度や政策を複合的に用いる必要があることを学ぶ。まず法律とはどういうものか、という基本を理解した上で、環境政策の基本原則を学び、代表的な国際条約や環境法規の概要、および環境政策の手法について知識を習得していく。	
	世界遺産学A		日本・アジア圏の世界遺産をいくつかとりあげて、それらの歴史的背景や文化的意義、保護と活用をめぐる諸問題について論じる。こうした論点から世界遺産の過去と現在を理解して将来を展望するためには、人文学・社会科学・自然科学にまたがる学際的な知見に加えて、異文化理解や国際協力といった国際的視野も求められる。この講義では、世界遺産を学ぶうえで必要となる多様なアプローチの方法について紹介しつつ、とくに歴史学とツーリズムを切り口にして、世界遺産をめぐる諸問題への理解を深める。	隔年
	世界遺産学B		欧米圏の世界遺産をいくつかとりあげて、それらの歴史的背景や文化的意義、保護と活用をめぐる諸問題について論じる。こうした論点から世界遺産の過去と現在を理解して将来を展望するためには、人文学・社会科学・自然科学にまたがる学際的な知見に加えて、異文化理解や国際協力といった国際的視野も求められる。この講義では、世界遺産を学ぶうえで必要となる多様なアプローチの方法について紹介しつつ、とくに歴史学とツーリズムを切り口にして、世界遺産をめぐる諸問題への理解を深める。	隔年
	都市フィールドワーク		都市フィールドワークの学問的位置づけ、コミュニティ研究との関わり、現代のまちづくりなどとの関わりにおける学問的な意義などについて社会学の方法論とともに学ぶ。都市フィールドワークを中心としながらも、参与観察法、ライフヒストリー分析などの質的データの分析法（質的データ分析ソフトの使用を含む）などの活用も視野に入れ、都市フィールドワークへの応用を考える。社会調査の一般的な類型とされている「量的調査と質的調査」の特徴を理解したうえで、(1)データの性質、(2)データの収集方法、(3)データの分析方法といった側面から、質的調査法の特性と課題を解説する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
(法律)	経済法		この授業では、経済法の中でも、国際社会における国家や企業の経済活動から生じる利益調整問題を包括的に取り扱う国際経済法を主に論じる。競争法、金融法、租税法等、広範な主題に関わる国家法と国際法、私法と公法、実体法と手続法等につき法学初級者向けに基礎知識を説明する。個別のトピックスとしては、近年問題になっている、国境を越える労働者を取り扱う国際労働法、知的財産権重視政策の基盤である国際知的財産法、国際的な環境対策のための国際環境法などを取り上げる。	隔年
	企業法		この講義では、商法の重要分野について、一通りの知識を体系的に習得することを目指す。単に「法律がどうなっているか」だけではなく、「なぜそうなっているか」という点を理解する。もっとも、企業に関わる法は幅広く存在し、その全てを網羅的に学習することは不可能である。そのため、この講義では、特に重要と思われる分野、会社の運営に関する法（会社法）および証券市場に関する法（金融商品取引法）を中心に取り上げる。	
	労働法		この講義では、まず、国民の8割以上を占める雇用者に関する法制度である労働法の歴史と基本的仕組みを概説し、労働者の権利と義務といった労働法の基本的な考え方を明らかにする。その上で、労働契約、賃金、人事異動、労働時間、ハラスメント、解雇、団体交渉など、労働のあらゆる場面に対応する法知識の習得を目指す。また、女性と雇用社会に関する課題や近年大きな問題になっている非正規労働の問題を重視する。学生にとっても、アルバイトを通じて身近な問題である労働の問題を法律的に考えることができるようになることを目指す。	隔年
	行政と法		行政法を基礎として、関連する法規も含め、行政機関の裁量、法的責任など行政の法的枠組みについて広く学んでいく。また、行政機関の権限や手続き等の具体的な実務に関わる要件も理解していくことを目的とする。また、まちづくりや地域社会の再生に重要な行政の役割を、さまざまな事例を通して学んでいく。さらに、持続可能な社会の創生に不可欠である市民参加について、行政がどのように推進していけるのか、情報公開や協議会等の政策的仕組みとそれに関連する法的枠組みを理解することを目指す。	
	市民参加と法		ひとづくり、ものづくり、まちづくり、暮らしづくり、職場づくり、政治参加、国際協力、平和貢献など、現代人が市民参加の現場において出会う法律的な諸問題の概要を理解する。グローバル化という社会変動なども視野に入れながら、市民参加と関わる法制度の成立、展開、今後の見直しなどの社会的な背景を、コミュニティ構想の観点から学んでいく。条文や法解釈の方法に特化するのではなく、コミュニティ実践のなかで出会う法的な問題を知り、法律的な知識を参照する方法について学ぶ。	
	基礎演習Ⅰ	○	大学における学問を修めるために必須であるさまざまなアカデミックスキルの基礎の習得と、積極的な学習態度を醸成することを目的とする。具体的には研究の方法論、論理的思考と批判的思考、研究倫理、情報技術リテラシー、学術的なリーディングとライティング、プレゼンテーション、などについて幅広く学んでいく。少人数の演習形式にて議論や体験を繰り返していくことで、こうした技能を習得し、その後の大学での学びに応用できるようになることを目指す。	
	基礎演習Ⅱ	○	すでに基礎演習Ⅰにて学んだ基礎的なアカデミックスキルを活かしながら、自ら小規模な研究テーマを設定し、研究に要する一連の試行を実践していく。具体的には、情報収集、文献レビュー、既往研究整理、調査方法のデザイン、実現可能な研究スケジュール、データの分析方法、結果の整理と考察、などについて、すべて学生自身が計画、実践していく。最終的に、学会発表と同様の形式による成果発表会にて、適切な学術的な手法を用いたレジュメの作成と口頭発表を行うことで、一連のアカデミックスキルの集大成とする。	
	2年次拠点実習Ⅰ	○	「2年次拠点実習Ⅰ」および「2年次拠点実習Ⅱ」を通じてアクティブラーニングを実践するものであり、学生は、まず、経済、経営、地域デザインの分野で身につけた社会科学的な知識に基づき、自分なりの課題解決型の学習課題を設定する。次に、学習課題を研究するために、学外学習を含む学習計画を立て、その内容を教員や学生と検討して改善する。作成した学習計画に基づき、調査・研究を進め、その進捗管理を自ら行う。学生の学びを進めるため、必要な基礎知識の講義、きめ細かな指導、ワークショップやグループワークでの検討の場の設定などを行う。	
	2年次拠点実習Ⅱ	○	学生は、「2年次拠点実習Ⅰ」で策定した学習計画に基づき、学外学習を含む調査研究を行い、その成果を報告書にまとめる。報告書の内容をプレゼンテーションし、教員や学生等と討議を行う。学生の調査研究が円滑に進むようにきめ細かな指導を行うとともに、報告書作成やプレゼンテーションのスキル等を講義し、プレゼンテーション・質疑応答・討論の場を設定する。あわせて、学生の学外学習についてのリスク対応等に配慮する。	
	3年次演習Ⅰ	○	3年次以降の演習は、経済、経営、地域デザインの3つのコース、さらにコース内に設定された専門分野から自ら選択し、専門性を高めることになる。「3年次演習Ⅰ」は、1・2年次の講義や演習で培った能力を自分の興味関心のある分野に応用し、現実の社会課題や企業経済活動を分析できるようにすることを目的とする。同じ興味関心を持ったメンバーとの議論を通じて理解を深め、「研究」への第一歩を踏み出すことが期待される。	
発展演習	3年次演習Ⅱ	○	「3年次演習Ⅱ」は、「3年次演習Ⅰ」に引き続き、これまでの講義や演習で培った理論や調査・分析ツールを用いてそれぞれの専門分野に応用し、現実の社会問題や企業経済活動を分析できるようにすることを目的とする。特に、4年次での卒業論文作成に向けて、各分野の知識の習得に努めることとなる。同じ興味関心を持ったメンバーとより深く学び、議論を通じて各自の意見の相違を認識し、お互いに尊重しつつ、理解を深めることが期待される。	
	4年次演習Ⅰ	○	「4年次演習Ⅰ」は、3年次演習で選択した専門分野の知識をさらに深化させ、各自がテーマを絞って、より専門的な学習を行うとともに、議論を通じて主体的に研究を進展させる能力を養う。卒業論文の作成とも連動させながら、先行研究のリサーチ、必要な資料・文献やデータの収集と整理、論文の構成の立て方など、論理的・客観的な学術論文を執筆するための能力を養うことが大切である。	
	4年次演習Ⅱ	○	「4年次演習Ⅱ」は「4年次演習Ⅰ」に引き続き、各自が決定した卒業論文のテーマに沿って、その分野の知識をさらに深化させるとともに、議論を通じ、主体的に研究を進展させる能力を養う。卒業論文の作成とも連動させながら、先行研究のリサーチ、必要な資料・文献やデータの収集と整理、論文の構成の立て方など、論理的・客観的な学術論文を執筆できるようにする。	
	卒業論文	○	「卒業論文」はこれまで取り組んだ講義や演習を通じて身につけた知識や分析能力を最大限活用し、自らの興味関心から発する問いに対する答えを明らかにするものである。論文の作成にあたっては、まず各自が研究テーマを設定し、先行文献を整理したうえで、テーマに即した分析手法を用い、結論を導き出すことになる。その過程において、研究成果に関する報告を行い、第3者からのコメントに対応していく中で、科学的知見に基づいた、客観的な視点に基づく成果を得ることになる。卒業論文提出後は副査1名を交えて口述試験を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
知の かけ はし 科目	人文社会横断型A	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では平和を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型B	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では子供の教育発達・学校教育を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型C	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では共生社会を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型D	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では言語を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型E	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義ではルールと社会を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型F	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では異文化理解を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型G	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では家族を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型H	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では環境問題を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型I	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では観光を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型J	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では健康を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人文社会横断型K	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では自然の理解を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型L	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では人間の認知を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型M	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では文学と社会科学を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型N	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義ではルールと社会を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型O	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義ではアジア圏の文化を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型P	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義ではジェンダーを共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型Q	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義ではウェルビーイングを共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型R	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では英語圏の文化を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型S	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では生命倫理を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型T	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では地域・都市を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人文社会横断型U	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では人文学と国際社会とのかけはしを共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型V	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では人文学と社会コミュニケーションとのかけはしを共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型W	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では人文学と心理学とのかけはしを共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型X	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では国際社会と社会コミュニケーションとのかけはしを共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型Y	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では国際社会と心理学とのかけはしを共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型Z	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では社会コミュニケーションと心理学とのかけはしを共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	自然科学包含型A	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。今日では、従来の文系／理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、デザインを共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型B	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。今日では、従来の文系／理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、AIデータサイエンスを共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型C	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。今日では、従来の文系／理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、宇宙を共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型D	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。今日では、従来の文系／理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、人文科学と情報数理科・自然科学とのかけはしを共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	自然科学包含型E	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意義を考えさせる。今日では、従来の文系／理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、国際社会と情報数理学・自然科学とのかけはしを共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型F	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意義を考えさせる。今日では、従来の文系／理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、経済学と情報数理学・自然科学とのかけはしを共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型G	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意義を考えさせる。今日では、従来の文系／理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、社会学と情報数理学・自然科学とのかけはしを共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型H	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意義を考えさせる。今日では、従来の文系／理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、コミュニケーションと情報数理学・自然科学とのかけはしを共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型I	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意義を考えさせる。今日では、従来の文系／理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、心理学と情報数理学・自然科学とのかけはしを共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
女性の 生きる 力 科目	挑戦するリベラルアーツ		この授業では、まずリベラルアーツとは何かという基本的な問いから出発し、リベラルアーツという学びを軸に据えたときに、どのような学びの活動が見えてくるかについて、互いに学問領域の異なった教員が、自身の研究テーマに即して自由に研究の内容を紹介し、魅力を語り、これからの展望を示す。これらを統合し、専門性をよりどころとしながらも、専門分野の殻に閉じこもらない、開かれた学びの態度を養うとともに、自分の専門分野を客観的にとらえ直す力を身につける。 (オムニバス方式／全15回) (175. 榊原哲也／1回) 誰かをケアするとはどういうことか、哲学からのアプローチを行う。 (56. 光延真哉／1回) 資料を通し江戸の芝居小屋を考察する。 (69. Howen, Andrew／1回) 俳句について、日本語圏・英語圏両方の視点から考察を行う。 (57. 柳原伸洋／1回) 誰しもが持つ「過去」とリベラルアーツとしての歴史学との違いについて検討する。 (63. 西村もも子／1回) 戦争、環境破壊、貧困といった問題はなぜ解決されないのか、国際関係から考える。 (15. 家永真幸／1回) 「地域文化」と「国際社会」をジャイアント・パンダにまつわる歴史・外交から読み解く。 (6. 長谷川克之／1回) Gゼロとは何かを学び、日本経済の針路を検討する。 (12. 小西由樹子／1回) 経営学を学ぶ重要性を検討する。 (1. 関村オリエ／1回) コミュニティを考えるためのさまざまな視点を学ぶ。 (26. 工藤恵理子／1回) 私たちはどのように自分と世界を認識しているのか検討する。 (30. 前川あさ美／1回) 「自分らしさ」とは何か、心理学的知見から検討する。 (67. 流王貴義／1回) 自身の自由が制約されていると感じる身近な例をもとに、社会と自由について検討する。 (65. 白銀純子／1回) 情報に対する利用者のニーズを考察する。 (66. 福島慎太郎／1回) 共生社会と心理について検討する。 (58. 山内博／1回) 24次元の神秘性に関わる話を紹介する。	オムニバス方式
	女性学・ジェンダーを学ぶ		近代化を推進してきた男性中心のパラダイムや価値観を、ジェンダーの視点から問い直した「女性学」。その成立の過程や基本概念について学びながら、体系的な理論構造を明らかにする。またそのなかで、女性学が提示した「ジェンダー」（社会的・文化的性差）の概念を軸として、性別を問わず個人としての尊厳が重んじられる男女共同参画社会のあり方について、男性学にも留意しながら考察していく。	
	女性のキャリア形成		人生においてどのようなキャリアを築くかは、ライフコースの選択と密接にかかわり、またライフコースの選択はジェンダーと直結している。個人のなかでキャリアとジェンダーは不可分であり、いずれかだけを考えて生きていくことはできない。この授業では、改正男女雇用機会均等法施行後の女性労働の現状、高学歴女性の職業意識やキャリアパターン、企業における女性のキャリア形成、仕事と家庭の両立支援などの問題をとりあげ、女性が生涯にわたって発展的なキャリアをたどるためのシナリオを考える。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	女性と社会		日本社会の内側、また国際社会にあって、女性が直面する問題にどのようなものがあるだろうか。また、現代にあってその問題にどのように取り組み、解決しようとしているのか。この講義では、このような問いかけをし、女性やジェンダーの視点から、現代社会を多面的に捉え、課題を洗い出したうえで、問題解決に向けての方策を考察する。	
	女性のウェルビーイング		現代社会の急激な変化によって、人々は生涯にわたって様々なストレスに晒される。この講義では、女性がストレスにどう対処し、それをどう成長の糧にするかについて、精神保健学の観点から学習する。人の誕生から死に至るまでのライフサイクルにおいて、節目節目で遭遇する精神医学的・心理的・社会的課題についてジェンダーの視点から概観し、それらを乗り越える知恵や経験やスキルを精神保健学から学び、この学習がその人らしいライフサイクルを送るための契機になるような講義を行う。	
	女性の起業		女性が社会で活躍し貢献するための一つのキ・ルートが起業である。本授業では、日本での起業をめぐる問題点や可能性、女性起業家の具体例や資金計画等に関する基礎的な知識を講述したうえで、ディスカッションやプレゼンテーションなどのグループワーク、個別のカウンセリングを通じて、商品企画を起業につなげるための実践的スキルを習得する訓練をおこなう。これにより、女性が実際に起業するまでの道筋を可視化して、起業へと一歩踏み出せるようにする。	
	女性のための金融リテラシー入門		基本的な金融商品・サービスの内容からサステナビリティの実現を通じて社会課題解決への取り組み等、金融業界に関する幅広い分野について学ぶ。そして、社会とつながることで成長を実感し、より豊かな暮らしを営むことに必要な金融知識を習得することに加え、社会の持続的な発展のため、金融を通じてよりよい社会や新たな価値創造に寄与しようとする態度を育む。	
	日本国憲法		この授業では、国の統治機構、基本的人権を中心に、代表的な判例を紹介しながら論点を整理し考察していく。日本国憲法制定の歴史、基本的人権の歴史、プライバシーの権利、法の下での平等、自由権的基本権、社会権的基本権、統治機構としての立法権、行政権、司法権などを取上げて日本国憲法の基本原理を学び、憲法改正問題についても触れる。	
	ケンブリッジ教養講座		この科目は、学生の学習機会の多様化を促進し、国際人としての広い社会的視野と深い見識を身につけることを目的とする。本学の夏期休暇中の約4週間、海外の大学で実施する教養講座に参加し、所定の成績を修めた場合の単位認定の科目として設置する。本学で身につけた外国語の運用能力を用いて、講義・討論・発表等を行なうことで、個々のテーマに関する知識を拡充し、その理解を深めると同時に社会・経済・文化をグローバルな視点で捉える能力の育成をめざす。	
	女性のウェルネス・身体運動	○	女性の健康のための基礎的な知識や方法論を学ぶ。各種測定を通じて自己の身体を把握し、スポーツ・エクササイズの実習を通して正しい運動法を身に付け、身体能力を養う。望ましい生活習慣を理解する。身体運動実習におけるグループ活動を通してコミュニケーション能力を高める。心身のコンディションを自己管理する重要性と基礎的手法を学ぶ。生涯を視野に入れ、自分に適した健康法、運動法を主体的に実践していく力を養う。	
	からだの科学		からだや健康に関連することがらについて、日々の生活で身近な話題や日常生活で役立つ内容も多く取り上げながら、からだの機能やメカニズムを科学的に捉え、運動に対する適応の仕組みを学び、積極的に健康を育んでいく姿勢を養う。女性のからだに着目し、妊娠・分娩・婦人科疾患についても学び、健康で自分らしく生きていくためにはどうすれば良いかを考える。	
	発育と発達		子どもは自発的に遊び、子どもなりの方法でその動きを身につけながら育っていくことが理想であるが、現代社会においては必ずしもそのとおりにはいかない数々の事情がある。本講義では、子どものからだの発育・発達の原理・原則を学び、さらに、体力・運動能力に影響する要因や正しい測定・評価方法などの知識を身につける。「育った」結果としての自分を考察するとともに、生涯にわたる人間の発育・発達を考える。	
	栄養と健康		健康に生きるための「食」についての知識、理論、実践法を学ぶ。栄養と運動は健康に直結している。摂取する食のエネルギーと生きているからだが使うエネルギーのバランス及びその内容の重要性について学ぶ。また、現代社会ならではの食の問題について考え、自らの食生活をチェックすることなどを通じて、健康に過ごすための食生活について理解を深める。	
	女性の健康科学		女性の基礎的教養として、生涯を通して必要な女性の身体とその機能、それに付随する事柄を科学的に理解することを目標とする。身体の解剖・機能・妊娠・分娩・婦人科疾患などについて基礎的な事柄を理解する。また性的問題や不妊治療、出生前診断などの、生理的知識のみならず、倫理的問題、またジェンダーの視点も加味して、性や生命の問題について考えを深める。	
	性と生命（セクソロジー）		本講義では生理学、性科学、ジェンダー、性の多様性、人間の性愛とは、性と社会など多面的に考察する。時代の大きな変化の中で「性」のあり方もまた大きく変わってきた。結婚する、しない、産む、産まない等、自己決定や選択の余地はなかったのである。今、それらは選択の対象となった。それは結果について自ら責任を負うことである。自分自身納得できる生き方を貫くためにはどうしたらよいのか。性への偏見や思い込みを捨て一から学び直す。	
	女性の心身コンディショニング		現代社会は様々なストレスにより心と身体の不調を訴える人々が増加している。この講義では、女性が健やかに一生を送ることができるよう心身のコンディションを整えるための理論と方法論を学ぶ。はじめに身体の構造を学び、不快症状の原因を探る。さらにその解消方法を様々な健康法から学び、実習することにより心身の自己管理能力を養い、生涯を健康的で豊かに過ごす能力を養う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
実践	スポーツA		スポーツは、私たちの生活を豊かにすることができる「地球規模の共通文化」である。ここでは様々なスポーツの中から、屋外で出来るスポーツ（テニス、サッカー、ソフトボール等）を取り上げ、基礎技術を習得し、身体能力の増進をはかり、スポーツを通じてコミュニケーション能力を養う。さらに生涯の健康増進も視野に入れ、スポーツを主体的に日常生活に取り入れていくための素養・能力を養う。	
	スポーツB		スポーツは、私たちの生活を豊かにすることができる「地球規模の共通文化」である。ここでは様々なスポーツの中から、屋内で出来るスポーツ（バドミントン、卓球、バレーボール・バスケットボール等）を取り上げ、基礎技術を習得し、身体能力の増進をはかり、スポーツを通じてコミュニケーション能力を養う。さらに生涯の健康増進も視野に入れ、スポーツを主体的に日常生活に取り入れていくための素養・能力を養う。	
	スポーツC		様々なスポーツを通して自分に合ったもの及び方法を探り、生き生きとした生活の一部として組み入れることができるよう、実践的に学ぶ。ルールを守り、安全に実施できることも重要な課題である。そのスポーツ特有の面白さを理解し、できないと思っていたことができるようになっていくプロセスを体験することにより、その魅力を第三者にも伝えられるようになることを目指す。	
	スポーツD		スポーツに関わる形は多様化しており、環境やルールや用具などを選択することにより、幼児から高齢者、体力の低い人や障害のある人でも生涯にわたり楽しむことが可能である。健康の維持・増進だけでなく、趣味や生きがい、社交の場ともなる生涯スポーツの意義や価値を知り、様々な活動の形に興味・関心を持って主体的に関わる態度を養う。基本技術を習得し、「できる」ことを増やすことで生涯スポーツの可能性を広げる。	
	フィジカルエクササイズA		本授業では伝統的中国養生法、身体技法をとりあげ、現代に生かす身体観、健康観の基礎を築き、身体技法を身につけることを目標とする。心を動かし、そして、身体を動かす。太極拳、練功十八法等を通して、動くことを外から見える身体の運動だけでなく、心の内面の充実、ゆっくり、心と対話しながら、身体の内面を磨くために伝統的身体技法を身につける。	
	フィジカルエクササイズB		代表的な健康法として知られているインド発祥のヨガは、特有のポーズと呼吸法で身体全体の免疫力の向上、ストレス緩和効果など、健康の維持や増進に役立つ効果がある。また、ピラティスはリハビリテーション・プログラムとして開発された経緯を持っているため様々な年代においての健康増進や筋力強化に効果がある。ここでは、ヨガやピラティスについての正しい基本的な知識や方法・効果について学び、実習を通してその技法を習得し、生涯の健康を支える自己管理能力を養う。	
	フィジカルエクササイズC		痩せたい、筋肉をつけたい、スポーツがうまくなりたいなど、目的によって様々なトレーニング方法があり、メディアには多くの情報が氾濫している。しかし、運動（トレーニング）と身体の変化には原理・原則がある。その基礎理論を学ぶことにより、それらの情報の持つ正しい内容を理解できるようになる。目的に応じた適切なトレーニング・プログラムを自ら作成する力をつけ、継続的に実践することにより、自分の身体が変わっていくことを知る。	
	身体表現A		人類の誕生と共に発生したダンスは、歴史・民族・風土・社会と深く関わりながら舞踊文化・身体文化を作り上げてきた。ここでは芸術性を重視したダンス（バレエ等）を取り上げ、その歴史的変遷を学び、各ダンスの特徴を学習していく。同時に基本技術を習得し、身体を通して表現する楽しさや洗練された身のこなし、豊かな感性の獲得を目指す。	隔年
	身体表現B		身体を通して表現する楽しさや洗練された身のこなし、豊かな感性の獲得を目指す。ここでは現代的なリズムに合わせたダンス（ジャズダンス・ヒップホップ等）の歴史的変遷を学び、基本技術を習得し、身体を通して表現する。音楽にあわせて踊るジャズダンスやヒップホップといったダンスを通して身体に意識を向け、ダンステクニックの基礎を習得しながら、表現力と感性を高め、身体表現の可能性を広げる。	
	身体表現C		日本人の身体文化に注目する。日本人の立ち居振る舞い、その特徴、日本の舞踊文化の歴史的変遷を学ぶ。踊りを習得し衣装を付け、身体を通して表現する。授業を通して、日本の伝統文化を発信できる知識も養う。伝統に培われた自然な身体技法を身に付けながら日本文化の真髄をからだで味わい、表現する。	隔年
キリスト 教学 科目	基礎	○	東京女子大学とキリスト教の関係を学ぶことによって、本学の「建学の精神」を理解する。また、キリスト教の全体像を学び、そのキリスト教の土台である聖書を学ぶ。これらの学びを通して、現代世界に生きる自らの人生について考える。	
		○	イエス・キリストの生涯と福音及び初代教会の設立と宣教活動について、またキリスト教の歴史的及び社会的展開を学ぶ。これらの学びを通して、現代世界に生きる自らの人生について考える。	
	発展		本講義の前提となるのは、西洋哲学思想がキリスト教神学との折衝を不可避な関係として受け止めてきた事実である。それ故に、特に西洋の哲学を理解する上で、キリスト教神学を把握することは、重要な学的営みだといえよう。本講義では、前半から中盤にかけて、キリスト教における信仰内容（教義）を、それぞれの項目ごとに詳細に言及しつつ、キリスト教神学思想の全体像を省察する。さらに本講義の後半では、現代における哲学と神学の関係性を、著名なキリスト教神学者の神学思想を基に考察する。	
			歴史と文化（旧約聖書においては古代オリエント、新約聖書においてはユダヤイズムとヘレニズム）との関わりや、テキストの文学的特徴にも関心向けながら、より深い理解が得られるよう聖書を読解する。それらを学問的に学ぶとともに、キリスト教思想についても理解を深め、それぞれの人生観・世界観について問い、生きる意味を考える。	
			グローバル化し多文化化する現代社会において、人はいかに生きるべきかという問い（生の哲学）に答えを見出すことは容易ではないし、そもそもその問いが成り立つのかも議論されてきた（メタ倫理学）。そういった近代以降の倫理学の展開（義務論、功利論等）、その前提と枠組みを意識しつつ、キリスト教は今日の倫理的問いに対してどのように語り得るのかを考える。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	キリスト教の歴史		キリスト教はローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会の3つの大きな流れに分かれて展開してきた。これらのキリスト教の歴史的展開と特徴を把握し、各時代を特徴づける人物や出来事を通して、キリスト教が思想（哲学）や文化の歴史に果たしてきた役割を理解する。	
	日本のキリスト教		キリスト教宣教の端緒から現代に至る日本キリスト教史を取り上げるとともに、各時代において重要な貢献を為したキリスト者（特に女性）に言及し、その生涯・思想を考察していく。また、日本におけるカトリック、オーソドクシー、プロテスタント及び無教会派の歴史及び特質を理解する。さらにキリスト教から影響を受けた日本の作品を取り上げ、その思想を考察する。	
	キリスト教の思想・文化		この講義は、西方教会圏（カトリック及びプロテスタント）における各国家共同体の文化思想の特色を理解することを目的とする。そのために、カトリシズム及びプロテスタンティズムの基本的な知識を把握し、各国家共同体の文化形成過程を概観しつつ、その独自の特色に言及していく。そしてそれらの文化形成を生み出したキリスト教思想を取り上げ、それらがいかんにして各国家の文化形成の特色に影響を与えていったかを考察していく。	
	キリスト教と諸宗教		世界に存在する諸宗教の中からユダヤ教、イスラム教等を取り上げ、キリスト教とそれらの宗教の歴史や相互の影響関係を学ぶことにより、それぞれの宗教の特徴を理解し、現代の宗教事情を把握する。	
	キリスト教と芸術		キリスト教が芸術・文化に与えてきた影響や、キリスト教が生み出してきた芸術・文化について学び、芸術や文化形成におけるキリスト教の役割について理解を深める。	
	キリスト教と音楽		ユダヤ教から大きな影響を受けた初代教会の時代から、現代に至るキリスト教音楽の歩みを解説する。音楽史全般にわたる基本的な流れをふまえながら、中世から現代までの各時代の特徴的な様式、音楽上の技法、演奏形態等を把握しつつ、主にキリスト教的題材に基づく代表的な作品をDVDやCD等の鑑賞を中心に紹介し、教会音楽のもつ魅力を探る。教会音楽を支えてきたパイプオルガンを使用してチャペルで授業を行う場合もある。	
	キリスト教講義		キリスト教思想の伝統から古典的文献を選び、そのテキストの精読を通じてキリスト教思想の精髓を深く理解する。そのために、テキストの時代的背景や著者の生涯についても学ぶとともに、近年の国内外の研究にも目を向ける。邦訳がある場合も、可能な範囲で原典と向き合う。	
Global Citizenship Program 科目	Integrated English A		Integrated English A is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English B), aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students improve their language skills in vocabulary, grammar and pronunciation, and through communicative activities, they develop the ability to understand and use language appropriately and construct coherent writings. Students are assessed on their knowledge of grammar, ability to read academic essays and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields. Integrated English Bと異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を習得する。	
	Integrated English B		Integrated English A is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English A), aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students improve their language skills in vocabulary, grammar and pronunciation, and through communicative activities, they develop the ability to understand and use language appropriately and construct coherent writings. Students are assessed on their knowledge of grammar, ability to read academic essays and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields. Integrated English Aと異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を習得する。	
	Integrated English C		Integrated English C is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English D), aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students will improve their language skills in terms of vocabulary, grammar and pronunciation. Furthermore, through communicative activities, they will develop the ability to understand and use language in context to construct coherent texts. Students are assessed on their understanding of content, application of critical thinking skills and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields. Students will also develop their skills in making presentations. Integrated English Dと異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を身に付け、英語でプレゼンテーションするスキルを習得する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Integrated English D		Integrated English D is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English C) aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students will improve their language skills in terms of vocabulary, grammar and pronunciation. Furthermore, through communicative activities, they will develop the ability to understand and use language in context to construct coherent texts. Students are assessed on their understanding of content, application of critical thinking skills and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields. Students will also develop their skills in making presentations. Integrated English Cと異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を身につけ、英語でプレゼンテーションするスキルを習得する。	
	Global Studies Seminar A		This course provides a student-centered flipped classroom that utilises MOOCs (Massive Open Online Courses) offered by universities where English is used as a medium of instruction, intending to develop skills needed to engage in studying at universities abroad. Learners will watch lectures online and engage in interactive tasks such as reading, writing, and thinking to deepen their understanding of the content. In the classroom, knowledge and understanding will be established through discussions and presentations. Students will interact with diverse learners from overseas university communities with different cultural backgrounds, communicate in English through cross-cultural experiences online, and develop the English ability to express their own opinions. 英語圏の大学が提供するMOOC (Massive Open Online Course) を活用した学習者主体の反転授業を行い、海外の大学留学に必要なスキルを身につける。学習者は、オンラインでGlobal Studies Seminar B と異なるテーマについての英語講義を視聴し、読む、書く、考えるなどの双方向タスクに取り組み、テーマ内容の理解を深める。一方、教室ではディスカッションやプレゼンテーションを通して、知識や理解の定着をはかる。文化的背景の異なる海外の大学コミュニティにおける多様な学習者と交わり、オンラインによる異文化体験を通して、英語でコミュニケーションをとり、自分の意見を発信する英語力をつける。	
	Global Studies Seminar B		This course provides a student-centered flipped classroom that utilises MOOCs (Massive Open Online Courses) offered by universities where English is used as a medium of instruction, intending to develop skills needed to engage in studying at universities abroad. Learners will watch lectures online and engage in interactive tasks such as reading, writing, and thinking to deepen their understanding of the content. In the classroom, knowledge and understanding will be established through discussions and presentations. Students will interact with diverse learners from overseas university communities with different cultural backgrounds, communicate in English through cross-cultural experiences online, and develop the English ability to express their own opinions. 英語圏の大学が提供するMOOC (Massive Open Online Course) を活用した学習者主体の反転授業を行い、海外の大学留学に必要なスキルを身につける。学習者は、オンラインでGlobal Studies Seminar A と異なるテーマについての英語講義を視聴し、読む、書く、考えるなどの双方向タスクに取り組み、テーマ内容の理解を深める。一方、教室ではディスカッションやプレゼンテーションを通して、知識や理解の定着をはかる。文化的背景の異なる海外の大学コミュニティにおける多様な学習者と交わり、オンラインによる異文化体験を通して、英語でコミュニケーションをとり、自分の意見を発信する英語力をつける。	
	Global Liberal Arts A		The course will focus on lectures given in English by faculty members of TWCU on contemporary topics related to their fields of specialization. There will be three sets of the following: "Preparation for the lecture," "Lecture and Q&A," "Group discussion on the lecture," and "Class discussion. The course will cover topics in three different areas from Global Liberal Arts B. 東京女子大学現代教養学部の教員が、その専門に関連する現代的トピックについて英語で行う講義を中心に展開される。「講義前準備課題、講義と質疑応答、講義を振り返るグループディスカッション、全体討論」を3セット行う。自身の専門領域あるいは異領域についての専門的な話題について、英語で調べ、聞き、意見交換し、考察する力を養う。Global Liberal Arts Bとは異なる3つの領域のトピックを扱う。	
	Global Liberal Arts B		The course will focus on lectures given in English by faculty members of TWCU on contemporary topics related to their fields of specialization. There will be three sets of the following: "Preparation for the lecture," "Lecture and Q&A," "Group discussion on the lecture," and "Class discussion. The course will cover topics in three different areas from Global Liberal Arts A. 東京女子大学現代教養学部の教員が、その専門に関連する現代的トピックについて英語で行う講義を中心に展開される。「講義前準備課題、講義と質疑応答、講義を振り返るグループディスカッション、全体討論」を3セット行う。自身の専門領域あるいは異領域についての専門的な話題について、英語で調べ、聞き、意見交換し、考察する力を養う。Global Liberal Arts Aとは異なる3つの領域のトピックを扱う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Study Abroad Preparatory English		This course aims to help students acquire and consolidate the academic skills necessary for studying at an English-speaking university. Furthermore, they will acquire knowledge through reading, discussing and debating academic references in English. In this study-abroad preparatory course, students will read a wide range of references, increase their reading speed, and learn how to do turn-taking effectively in group discussions. Students will also learn to use formal language and improve their English language skills to adapt to the actual study environment in the host country. 英米圏の大学留学に必要なアカデミックスキルの習得と定着を目標に、英語の学術書や文献を読み、議論し討論することで知識を身につける。さまざまな文献を多く読み、読むスピードを上げ、グループディスカッションでの効果的なターンテークングの方法も学ぶ。また、留学先での実際の学習環境に適したフォーマルな表現を学び、英語力を向上させる。	
	Post-SA Research Seminar		In this course, students deepen their understanding of global topics based on their study abroad experience and achievements. Collaborative Online International Learning (COIL) will be applied by connecting and collaborating with speakers and students from abroad online to work on a common research topic. Students will practice spontaneous and logical explanations needed to collaborate in English online, and develop the skills to lead discussions in English. 協定校留学をもとに、グローバルなテーマへの理解を深めるため、海外のスピーカーや学生とCollaborative Online International Learning (COIL)などを活用し、共通の研究テーマに取り組む。協働学習に参加し、議論を展開しながら、さまざまな分野についての理解を深める。	
	Global Citizenship Workshop I		Based on the learning in the Global Citizenship Program, students further develop their knowledge and skills. The content of each research will be presented in English in a manner that can be understood by non-specialists. This will be developed through repeated question-and-answer sessions. Classes are conducted in a student-centered workshop format. Global Citizenship Programでの学びをもとに、自分の専攻分野での知識を深め、成果発表に向けて準備する。その際、専門分野以外の人々が、研究テーマを理解できる英語で発表することが求められる。授業は、学生中心のワークショップ形式で行われ、発表と質疑応答を繰り返しながら技能を向上させる。	
	Global Citizenship Workshop II		Based on the learning in the Global Citizenship Program, students further develop their knowledge and skills and write a high quality graduation thesis/graduation research. The content of each graduation thesis/research will be presented in English in a manner that can be understood by non-specialists. This will be developed through a number of question-and-answer sessions. Classes are conducted in a student-centered workshop format. Global Citizenship Programでの学びをもとに、自分の専攻分野の知識と統合し、質の高い卒業論文の執筆に向けた成果発表に挑む。最終の公開プレゼンテーションでは、専門分野以外の人々が、研究テーマを理解できる英語で発表することが求められる。授業は、学生中心のワークショップ形式で行われ、発表と質疑応答の手法を繰り返し、技能を習得する。	
	SA-based Global English		Through this study abroad program, students learn about the current situation and current affairs in the fields such as culture, socio-economics, history, community, and information in the world, and nurture the skills necessary to develop individuals who can play an active role in global society. 英語圏への協定校留学に参加したGlobal Citizenship Program生が、所定の成績を修めた場合の単位認定科目である。文化、社会経済、歴史、コミュニティ、情報など各種分野における世界の情勢に関する実態や、時事問題について学び、グローバル社会において活躍できる地球市民となるために必要な力を育成する。	
第一外国語科目	Academic Discussion Skills A	○	Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. Students will take part in small group discussions as active participants or discussion leaders. They will summarise the main ideas from academic lectures, and discuss their understanding of and personal reactions to those topics. リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法に応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。少人数のグループ・ディスカッションに積極的に参加し、ファシリテーターの役割も経験する。講義の要点をまとめ、講義内容のトピックに関する理解や個人の意見について議論する。	
	Academic Discussion Skills B	○	Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. Students will continue to develop their note-taking skills such as listening for lecture structure language and using abbreviations. Students will have further practice in responding to the ideas and issues presented in the lectures by participating actively in pair, group and whole class discussions. リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法に応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。学生は講義の構成を示す表現に注意を払って聴き、略語の使用によってノートを取るスキルをさらに向上させる。ペア、グループ、クラス全体でのディスカッションに積極的に参加することで、講義で示された発想や問題に対する自分の意見を述べる実践練習をさらに重ねる。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Academic Reading Skills A	○	Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. In this course, students will develop their academic reading skills by: doing timed readings to increase reading speed; reading extensively to build reading fluency and vocabulary knowledge; and reading intensively to learn about academic, thought-provoking topics. リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法に応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。この科目では、学生は以下の方法によって学術的な読解力を向上させる。 ・制限時間を設定した読解練習によって、読む速さを向上させる。 ・多読を通じて、読解力を養い、語彙の知識を構築する。 ・精読を通じて、学術的で啓発的なトピックについて学ぶ。	
	Academic Reading Skills B	○	Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. Students will continue to develop different facets of their reading abilities. They will continue to practice academic reading strategies so they are prepared to tackle more challenging texts on their own. They will identify text organisation, main ideas, and respond critically to the content. リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法に応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。学生は様々な側面における読解力の向上を継続する。さらに、より難易度の高い文章の読解に自力で取り組むことができるよう、さまざまな読解方略の実践練習を重ねる。加えて、文章の構成や要点を理解した上で、内容に対して批判的に反応する。	
	Academic Writing Skills I	○	Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. The emphasis in this course is on developing academic vocabulary in use through authentic texts, guiding the student to produce well structured paragraphs. Critical thinking skills are at the core of all tasks, enabling students to express their thoughts logically, with reasons to support them. リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法に応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。 この科目では、学術的な文章の原文を扱う課題を通じて、学術的な語彙を習得することに重点を置き、学生がしっかりとした構造を持つパラグラフを作成できるよう指導する。学生が裏付けとなる根拠を挙げて自らの考えを論理的に表現することを可能にする、批判的思考力の養成を全ての課題の中心に置く。	
	Academic Writing Skills II	○	Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. This course will develop students' abilities to convey their ideas in a logical manner with reasons and evidence. They will build on what they learned about sentence and paragraph structure to write longer pieces of academic writing. Students will continue to develop their writing fluency and vocabulary knowledge by doing timed-writings. リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法に応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。 この科目では、学生が理由と根拠を挙げて自らの考えを論理的に述べる力を養成する。文と段落の構造について学習した内容に立脚して、より長い学術的な文章を書く力を身につける。制限時間内に文章を書くアクティビティを通して、流暢に書く力と語彙力を高める。	
	Exploring Content: Listening/Speaking A	○	Building on the academic skills learnt in Year 1, students will apply their critical thinking skills to evaluate the reliability of sources in different academic tasks. Students will learn how to respond to content in an original way and become confident in expressing their own ideas. They will also develop their ability to learn collaboratively. This course will enable students to practice and hone the academic skills they learned in year 1 and apply them to academic lectures and discussions. The emphasis will be on learning new content related to academic topics. Students will summarise, discuss and make individual or group presentations related to these topics. 1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、様々な課題に取り組む際に批判的思考を応用して情報源の信頼性を評価する。学生は資料の内容に対して独創的に反応し、自信を持って自らの考えを表現することを学ぶ。共同学習をする力も向上させる。 この科目では、学生は1年次で学習したアカデミック・スキルを講義の受講やディスカッションに応用する実践練習を積む。学術的なトピックに関連する新たな内容を学ぶことに重点を置き、学生はこれらのトピックに関する要約と議論に加え、個人やグループでの発表を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Exploring Content: Listening/Speaking B	○	Building on the academic skills learnt in Year 1, students will apply their critical thinking skills to evaluate the reliability of sources in different academic tasks. Students will learn how to respond to content in an original way and become confident in expressing their own ideas. They will also develop their ability to learn collaboratively. This course will enable students to practice and hone the academic skills they learned in year 1 and apply them to academic lectures and discussions. The emphasis will be on learning new content related to academic topics that are different from Exploring Content: Listening/Speaking A. Students will summarize, discuss, and make individual, or group presentations related to these topics. 1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、様々な課題に取り組む際に批判的思考を応用して情報源の信頼性を評価する。学生は資料の内容に対して独創的に反応し、自信を持って自らの考えを表現することを学ぶ。共同学習をする力も向上させる。 この科目では、1年次で習得したアカデミック・スキルを講義の受講やディスカッションに適用する実践練習を積む。Exploring Content: Listening/Speaking Aで扱った内容とは異なる学術的なトピックについての新たな内容の学習に重点を置く。学生は、これらのトピックに関する要約と議論に加え、個人やグループでの発表を行う。	
	Exploring Content: Reading/Writing A	○	Building on the academic skills learnt in Year 1, students will apply their critical thinking skills to evaluate the reliability of sources in different academic tasks. Students will learn how to respond to content in an original way and become confident in expressing their own ideas. They will also develop their ability to learn collaboratively. This course will enable students to practice and hone the academic skills they learned in year 1 and apply them to academic reading and discussions. The emphasis will be on learning new content related to academic topics through reading. Students will summarise, discuss and respond to content through written tasks including summaries and critical evaluations. 1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、様々な課題に取り組む際に批判的思考を応用して情報源の信頼性を評価する。学生は資料の内容に対して独創的に反応し、自信を持って自らの考えを表現することを学ぶ。共同学習をする力も向上させる。 この科目では、学生は1年次で習得したアカデミック・スキルを学術的な文章の読解やディスカッションに適用する実践練習を積む。リーディングを通じて、学術的なトピックについての新たな内容を学習することに重点が置かれる。ライティングの課題には、文章の内容の要約と批判的な評価を書くことが含まれる。これらの課題を通して、学生は読解した内容を要約し、議論し、内容に対する自身の考えを述べる。	
	Exploring Content: Reading/Writing B	○	Building on the academic skills learnt in Year 1, students will apply their critical thinking skills to evaluate the reliability of sources in different academic tasks. Students will learn how to respond to content in an original way and become confident in expressing their own ideas. They will also develop their ability to learn collaboratively. This course will enable students to practice and hone the academic skills they learned in year 1 and apply them to academic reading and discussions. The emphasis will be on learning new content related to academic topics that are different from Exploring Content: Reading/Writing A through reading. Students will summarize, discuss, and respond to content through written tasks including summaries and critical evaluations. 1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、様々な課題に取り組む際に批判的思考を応用して情報源の信頼性を評価する。学生は資料の内容に対して独創的に反応し、自信を持って自らの考えを表現することを学ぶ。共同学習をする力も向上させる。 この科目では、学生は1年次で習得したアカデミック・スキルを学術的な文章の読解やディスカッションに適用する実践練習を積む。リーディングを通じて、Exploring Content: Reading/Writing Aで扱った内容とは異なる学術的なトピックについての新たな内容を学ぶことに重点が置かれる。ライティングの課題には、文章の要約と批判的な評価を書くことが含まれる。これらの課題を通して、学生は読解した内容を要約し、議論し、内容に対する自身の考えを述べる。	
	Presenting Research		Building on the academic skills in the first year programme, students will further develop their research skills and cultivate their awareness in thinking critically about their research. By working in collaboration with other students, learners will become equipped with the tools they need to discover solutions with a view to making a contribution to the knowledge of the world. This course is designed to help students develop their presentation skills. The course will equip students with essential skills to deliver compelling academic presentations derived from their literature reviews or research findings. It will allow them to improve their presentation skills, including planning, drafting, and revising their speeches and using presentation-specific academic vocabulary. Students will also have ample opportunities to build confidence through a variety of presentation formats, including small-group, pair, and individual presentations. They will be able to refine their presentations through peer and instructor feedback and become more effective communicators. 1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、リサーチ・スキルをさらに発展させ、自らのリサーチについて批判的に思考する意識を養成する。学習者は、他の学生との共同作業によって、世界の知に貢献するための解決方法を見出すうえで必要なツールを身に着ける。 この科目は、プレゼンテーション・スキルの向上を目的とし、文献のレビューや研究結果に基づいた説得力のあるプレゼンテーションを行うために必須のスキルを習得する。スピーチの立案、草稿の作成、推敲、プレゼンテーションで特に用いられるアカデミックな語彙の使用を含む、プレゼンテーションのスキルを向上させる。加えて、少人数のグループ、ペア、個人によるプレゼンテーションなど、学生が様々なプレゼンテーション形式を通じて自信をつける機会も十分に提供する。他の学生や教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーションを洗練させ、より効果的なコミュニケーション能力を身につける。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Writing Research Papers		Building on the academic skills in the first year programme, students will further develop their research skills and cultivate their awareness in thinking critically about their research. By working in collaboration with other students, learners will become equipped with the tools they need to discover solutions with a view to making a contribution to the knowledge of the world. This course is designed for students who are interested in improving their academic writing skills. The course focuses on developing critical thinking and creativity skills to help students produce high-quality research papers with examples from the disciplines of Humanities, Social Sciences, Education, Psychology and Science, among others. Through a series of lectures, assignments, and workshops, students will learn how to evaluate sources, analyze data, and develop arguments in a clear and concise manner. The course will also equip students with essential academic skills, such as independent learning, effective time management, and research methods. 1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、リサーチ・スキルをさらに発展させ、自らのリサーチについて批判的に思考する意識を養成する。学習者は、他の学生との共同作業によって、世界の知に貢献するための解決方法を見出すうえで必要なツールを身に着ける。 この科目はアカデミック・ライティングのスキル向上に関心のある学生を対象とする。人文科学、社会科学、教育学、心理学、科学等の様々な分野の例を扱い、質の高い論文を作成する一助となる批判的思考力と創造性を向上させることに焦点を当てる。学生は講義、課題、ワークショップを通じて、資料の評価、データ分析、明晰で簡潔な議論展開の方法を学ぶ。加えて、自律的な学習、効果的な時間管理、研究方法等、必須のアカデミック・スキルも身に着ける。	
	Media Literacy		Building on the academic skills in the first year programme, students will further develop their research skills and cultivate their awareness in thinking critically about their research. By working in collaboration with other students, learners will become equipped with the tools they need to discover solutions with a view to making a contribution to the knowledge of the world. This course will enhance students' understanding of media-related vocabulary and concepts and foster their media literacy skills. It will prepare students to deconstruct media messages by identifying message creators, intended audiences, and message goals. This process will enable students to become independent, critical consumers of media. In addition, students will produce reports resembling newspaper articles, which will give them the opportunity to apply their newfound skills in a real-world setting. 1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、リサーチ・スキルをさらに発展させ、自らのリサーチについて批判的に思考する意識を養成する。学習者は、他の学生との共同作業によって、世界の知に貢献するための解決方法を見出すうえで必要なツールを身に着ける。 この科目は、メディアに関連する語彙や概念についての学生の理解を深め、メディア・リテラシーを育成する。メッセージの作成者、メッセージが対象とする読者、メッセージの目標を特定することで、学生がメディア・メッセージを分解して分析する準備を整える。このプロセスを通して、学生が独立した批判的思考を行うメディア消費者となることを目指す。加えて、学生は新聞記事のようなレポートを作成する。これにより、学生は新しいスキルを実践する機会を得る。	
	English through Literature		This course is designed for students to study content through an interdisciplinary approach. This will provide students the opportunity to explore across the disciplines to form an intellectual grounding. Students will learn the language used in different subjects in order to articulate their own thinking in a critical manner. In this content-based course students will develop their critical thinking skills and creativity by: 1. learning about how literature, including drama, has been performed through video analysis. 2. enhancing knowledge of different genres of literature through the performance of works of literature in groups. 3. developing an understanding of key literary concepts and putting these to use in analysis of literary texts. この科目は、学生が学際的なアプローチを通して学ぶことを目的とする。これにより、学生は知的基盤を形成するために、分野を超えて探求する機会を得ることができる。学生は、自分の考えを批判的に表現するために、異なる分野・科目で使用される言語を学ぶ。 内容重視型の本授業では、批判的思考力および創造力を養うために、以下を習得する。 1. 演劇を含む文学がどのように上演されてきたか、映像分析を通じて学ぶ。 2. グループで文学作品の上演を通じて、さまざまなジャンルの文学についての知識を高める。 3. 重要な文学的概念の理解を深め、文学作品の分析にそれらを活用する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Topics in Language Study		This course is designed for students to study content through an interdisciplinary approach. This will provide students the opportunity to explore across the disciplines to form an intellectual grounding. Students will learn the language used in different subjects in order to articulate their own thinking in a critical manner. This course introduces topics of language study from fields such as technology, education, journalism, literature, medicine, sociology, philosophy, behavioral science, marketing, nutritional science, psychology, art history, new technologies, and more. Students will examine a diverse range of topics, taking a global education approach to language study which will improve their English in all four skills while also empowering them to become world citizens. この科目は、学生が学際的なアプローチを通して学ぶことを目的とする。これにより、学生は知的基盤を形成するために、分野を超えて探求する機会を得ることができる。学生は、自分の考えを批判的に表現するために、異なる分野・科目で使用される言語を学ぶ。 この科目はテクノロジー、教育、ジャーナリズム、文学、医学、社会学、哲学、行動科学、マーケティング、栄養学、心理学、美術史、新たなテクノロジー等の多岐にわたる分野から選択された、語学学習のトピックを紹介する。グローバル教育のアプローチ法を語学学習に取り入れ、多様なトピックを検証することにより、学生が英語の4技能すべてを向上させるとともに、世界市民になることを可能にする。	
	Topics in Arts and Sciences		This course is designed for students to study content through an interdisciplinary approach. This will provide students the opportunity to explore across the disciplines to form an intellectual grounding. Students will learn the language used in different subjects in order to articulate their own thinking in a critical manner. Topics that this course covers can range from topics from the fields of sociology, philosophy, political science, psychology, history, art history, anthropology, human rights, bioethics, migration studies, and AI. Students will improve their language skills through engaging discussions, readings, and activities while gaining discipline-specific knowledge. The course encourages critical thinking and global awareness, improves students' English language proficiency, and broadens their intellectual horizons. この科目は、学生が学際的なアプローチを通して学ぶことを目的とする。これにより、学生は知的基盤を形成するために、分野を超えて探求する機会を得ることができる。学生は、自分の考えを批判的に表現するために、異なる分野・科目で使用される言語を学ぶ。 この科目は社会学、哲学、政治学、心理学、歴史、美術史、人類学、人権、生命倫理、移住研究、AIなど幅広いトピックを取り扱う。学生は各分野特有の知識を得ながら、興味深いディスカッション、リーディング、その他のアクティビティを通じて言語スキルを向上させていく。批判的思考とグローバルな認識を奨励し、学生の英語運用能力を向上させ、知的視野を広げることを目的とする。	
	IELTS		Developing their academic skills, students will practice all four components of the IELTS exam. By cultivating these academic tools, learners will apply these skills to other courses and become more independent in making decisions in their approach to learning. The course will prepare students to study abroad as well as in Japan, as IELTS is an internationally recognised exam. This course will introduce the core strategies for achieving test-success. Students will learn more about how each section is scored and thoroughly understand the band descriptors which describe written and spoken performance. They will prepare for the test using a critical-thinking approach to a wide range of topics. アカデミックなスキルを身につけるため、IELTS試験の4つのコンポーネントすべてをカバーする。学生は、これらのスキルを他の科目にも応用し、学習へのアプローチにおいてより自律した意思決定を行うことができるようになる。IELTSは国際的に認められている試験であるため、このコースは日本での学習だけでなく海外留学の準備にもなる。 この科目は、語学検定試験で成功するための主要な方法を紹介する。学生は各セクションがどのように採点されるかを学び、筆記および口頭試験でのパフォーマンスを評する採点基準を徹底的に理解する。加えて、幅広いトピックに対する批判的思考を用いたアプローチによって、語学検定試験の準備をする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Business English		This course provides the opportunity for students to develop their professional English skills both for seeking employment and on-the-job situations. Students will cultivate their ability to work with diverse groups of people and develop their communication as well as intercultural skills. This course will prepare students for their participation in the international arena in future. Through the activities which include reading excerpts of authentic materials such as newspapers addressed to the international readership, together with participation in group works evoking real-life business scenes, it enables students to learn the basics of business English and communication skills including reading and writing business related documents, writing CVs, attending job interviews, and so on. Through the observation of the examples of business-related expressions and conversations, students will deepen their understanding of different cultures and senses of values, while looking at various topics in the contemporary society from a wider perspective. この科目は、就職活動や仕事上の場面で、専門的な英語力を身につける機会を提供する。多様な人々と仕事をする能力を養い、コミュニケーション能力だけでなく、異文化対応能力も習得する。 この科目は学生が将来国際的な舞台に参加するための準備を整えることを目的とする。国際的な読者を対象とする新聞の原文の抜粋等の読解や、現実のビジネス・シーンを想起させるグループ・ワーク等のアクティビティを通じて、学生はビジネスに関連する文書の読み書き、履歴書の書き方、面接の出席等を含む、ビジネス英語とコミュニケーション・スキルの基礎を学ぶ。加えて、ビジネスに関わる表現や会話の例等の観察を通して、異なる文化や価値観への理解を深め、現代社会の様々なトピックの一端をより広い視野から捉える。	
	Pronunciation		This course is designed to enhance skills necessary for succeeding in academic communication. Students will be able to consolidate their ability to gain knowledge and study effectively. They can become learners who are able to reflect on their own strengths and weaknesses and become responsible for their successes. This course will develop students' pronunciation through practical activities and feedback and introduce them to pronunciations found in a wide range of Englishes. この科目は、学術的なコミュニケーションで成功するために必要なスキルを高めることを目的とする。学生は、得た知識を使って効果的に勉強する能力を固めることができるようになる。自分の長所と短所を振り返り、成功に責任を持つことができる学習者になることができる。 この科目では、実践的なアクティビティとフィードバックを通じて学生の発音を向上させる。さらに、幅広い種類の英語に見られる様々な発音を紹介する。	
	英語音声学		英語独特の音声的特徴の基本的知識を学ぶとともに、英語の発音の仕方を身につけることを目的とする。母音の構成、子音の種類、音節の成り立ち、音のつながり(linking)、語・句・文の各レベルにおける強勢パターン、イントネーション、リズムなどについて、日本語との違いを念頭に置きながら学習する。同時に、CD 教材やCALL 教室のインタラクティブなトレーニングソフトなどを用いて、英語の発音の実践練習を行い、英語らしい発音の仕方を体得する。	
	Extensive Reading		This course is designed to enhance skills necessary for succeeding in academic communication. Students will be able to consolidate their ability to gain knowledge and study effectively. They can become learners who are able to reflect on their own strengths and weaknesses and become responsible for their successes. Students will maintain a reading journal: recording book titles and word counts, summarising plot, and reacting personally to what they have read. Students will discuss the books in Literature Circles, taking turns in different roles (Discussion Leader, Summariser, Word Master, Culture Connector). この科目は、学術的なコミュニケーションで成功するために必要なスキルを高めることを目的とする。学生は、得た知識を使って効果的に勉強する能力を固めることができるようになる。自分の長所と短所を振り返り、成功に責任を持つことができる学習者になることができる。 この科目では学生は読書日誌を付け、読んだ本のタイトルと文字数を記録し、プロットを要約し、読んだ内容についての各自の視点からの考察を論述する。学生は少人数のグループ（文学サークル）を作り、多様な役割（ディスカッション・リーダー、要約担当者、ワード・マスター、文化コネクター）を交代で担当しながら、本について議論する。	
	Study Skills		This course is designed to enhance skills necessary for succeeding in academic communication. Students will be able to consolidate their ability to gain knowledge and study effectively. They can become learners who are able to reflect on their own strengths and weaknesses and become responsible for their successes. This course will equip students with essential study skills they need to succeed in their university courses. Emphasis will be given on how to develop their English abilities through online tools, apps as well as on-campus resources. この科目は、学術的なコミュニケーションで成功するために必要なスキルを高めることを目的とする。学生は、得た知識を使って効果的に勉強する能力を固めることができるようになる。自分の長所と短所を振り返り、成功に責任を持つことができる学習者になることができる。 この科目では、学生は大学での学修を全うするために必要となる、必須の学習スキルを身につける。オンライン・ツール、アプリ、キャンパス内のリソースを通じて英語力を伸ばす方法に重点が置かれる。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Intensive English		この科目は、本学が企画し外国の大学が提供する語学研修（英語）、および本学があらかじめ認めた外国の大学が実施する語学研修（英語）に参加した学生が、所定の成績を修めた場合の単位認定科目である。語学研修は、聞き、話し、読み、書く4技能にわたる語学力の向上と異文化体験による自己研鑽をはかることを目的に実施され、参加学生のレベルを考慮したクラス編成により授業が行われる。学生には、事前学習会等への出席が義務付けられている他、準備段階から積極的に自己の語学力を高めていく努力が望まれる。	
	日本語Ⅰ（入門）		外国人留学生在大学での学習に必要な基礎的な日本語スキルを習得することを目標とする。「日本語Ⅰ（入門）」は、入門として受講者の日本語能力を考慮し、運用能力の向上を目指す。受講者個々の理解度を確認しつつ、2名の担当者が相互に連絡・調整を行いながら進める。「日本語Ⅱ（応用）」とともに第一外国語の必修単位である。週4コマの授業。	
	日本語Ⅱ（応用）		外国人留学生在大学での学習に必要な基礎的な日本語スキルを習得することを目標とする。「日本語Ⅰ（入門）」で学んだことを応用して、さらに日本語の運用能力の向上を目指す。専門科目等で必要な発表、プレゼンテーションの技術も修得する。受講生個々の理解度を確認しつつ、担当者相互に連絡・調整を行いながら進める。「日本語Ⅰ（入門）」とともに第一外国語の必修単位である。週4コマの授業。	
第二外国語科目	ドイツ語初級1	○	初級1では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙の初歩を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。 ドイツ語は、英語やオランダ語などとともに西ゲルマン語に属し、語彙や文法など様々な面で英語との共通点が多い。それゆえ、ドイツ語を学ぶことによって英語を客観的に見る視点を養い、類縁言語比較の面白さを感じ得るようになることも視野に入れる。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	フランス語初級1	○	初級1では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙の初歩を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。論理的な明晰性と洗練を特徴とし、18世紀以降国際外交語としての地位を保ってきたフランス語は、ラテン語をもとにできた言語である。英語の語彙はラテン語やフランス語の影響を強く受けて発展してきたので、相互に学習を助け合える英仏2言語の学習が、国際人へと成長する第一歩となるよう、学力の向上を図る。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	スペイン語初級1	○	初級1では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。 スペイン語は、母語人口で世界第2位、国際連合の公用語の一つであり、公用語としている国も20カ国にのぼる。また、現代のアメリカ社会を学ぼうとするにはスペイン語は欠かせない。世界の人々と交流し、国際的にも通用し得る学力の習得に至るよう向上を図る。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	中国語初級1	○	初級1では、正確な発音、音の表記に最も広く用いられているピンイン（ローマ字を用いる）、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。 中国語は、東アジア歴史、文化について学び、これへの理解を深めようとする者にとって、欠かせない言語の一つである。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	韓国語初級1	○	初級1では、ハングルを覚え、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。 日本語に非常によく似た外国語である韓国語は日本人にとって習得し易く、合理的に工夫された表音文字であるハングルを覚えたら、文法を習得するのは比較的容易である。しかし「似ている」と思われている隣り合う日韓の文化には大きく異なる面もある。韓国語の学習を通して、異なった文化や考え方に触れる貴重な機会ともさせる。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	ドイツ語初級2	○	初級2では、初級1の学修を受け、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を発展させる。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 ドイツ語は、英語やオランダ語などとともに西ゲルマン語に属し、語彙や文法など様々な面で英語との共通点が多い。それゆえ、ドイツ語を学ぶことによって英語を客観的に見る視点を養い、類縁言語比較の面白さを感じ得るようになることも視野に入れる。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	フランス語初級 2	○	初級2では、初級1の学修を受け、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活で必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を発展させる。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 論理的な明晰性と洗練を特徴とし、18 世紀以降国際外交語としての地位を保ってきたフランス語は、ラテン語をもとにできた言語である。英語の語彙はラテン語やフランス語の影響を強く受けて発展してきたので、相互に学習を助け合える英仏 2 言語の学習が、国際人へと成長する第一歩となるよう、学力の向上を図る。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	スペイン語初級 2	○	初級2では、初級1の学修を受け、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活で必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を発展させる。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 スペイン語は、母語人口で世界第2位、国際連合の公用語の一つであり、公用語としている国も20 カ国にのぼる。また、現代のアメリカ社会を学ぼうとするにはスペイン語は欠かせない。世界の人々と交流し、国際的にも通用し得る学力の習得に至るよう向上を図る。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	中国語初級 2	○	初級2では、初級1の学修を受け、正確な発音、音の表記に最も広く用いられているピンイン（ローマ字を用いる）、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を発展させる。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 中国語は、東アジア歴史、文化について学び、これへの理解を深めようとする者にとって、欠かせない言語の一つである。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	韓国語初級 2	○	初級2では、初級1の学修を受け、ハングルを覚え、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活で必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を発展させる。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 日本語に非常によく似た外国語である韓国語は日本人にとって習得し易く、合理的に工夫された表音文字であるハングルを覚えたら、文法を習得するのは比較的容易である。しかし「似ている」と思われている隣り合う日韓の文化には大きく異なる面もある。韓国語の学習を通して、異なった文化や考え方に触れる貴重な機会ともさせる。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	ドイツ語（読解）		読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすドイツ語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	
	ドイツ語（会話）		初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。	
	ドイツ語（総合）		初級で習得した、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を発展させ、言語運用に不可欠な総合的な力を培う。この授業では各種検定試験合格を目的として、実用的な語学力を身につける訓練を行う。また専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。	
	フランス語（読解）		読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすフランス語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	
	フランス語（会話）		初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。	
	フランス語（総合）		初級で習得した、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を発展させ、言語運用に不可欠な総合的な力を培う。この授業では各種検定試験合格を目的として、実用的な語学力を身につける訓練を行う。また専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。	
	スペイン語（読解）		読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすスペイン語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	スペイン語（会話）		初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。	
	スペイン語（総合）		初級で習得した、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を発展させ、言語運用に不可欠な総合的な力を培う。この授業では各種検定試験合格を目的として、実用的な語学力を身につける訓練を行う。また専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。	
	中国語（読解）		読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなす中国語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	
	中国語（会話）		初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。	
	中国語（総合）		初級で習得した、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を発展させ、言語運用に不可欠な総合的な力を培う。この授業では各種検定試験合格を目的として、実用的な語学力を身につける訓練を行う。また専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。	
	韓国語（読解）		読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなす韓国語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	
	韓国語（会話）		初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。	
	韓国語（総合）		初級で習得した、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を発展させ、言語運用に不可欠な総合的な力を培う。この授業では各種検定試験合格を目的として、実用的な語学力を身につける訓練を行う。また専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。	
	中国と日本の文学文化A		近代における中国文学と日本文学のかかわりを中心に、両文化の交流の様相や相違点などについて多角的に考察する。初級で習得した中国語の能力を応用して実際に中国と日本の文学作品等を読み解き、さらに積極的な意見発表・問題提起を行うことを重視する。主な検討対象は明治期以降戦前・戦中期の文学・文化（小説・詩・評論その他）とするが、必要に応じて前近代の古典文化・文学についても参照する。併せて近現代における日中関係や中国の文化社会的背景の理解にも留意し、総合的に日本文化と中国文化への理解を深める。	
	中国と日本の文学文化B		近代における中国文学と日本文学のかかわりを中心に、両文化の交流の様相や相違点などについて多角的に考察する。初級で習得した中国語の能力を応用して実際に中国と日本の文学作品等を読み解き、さらに積極的な意見発表・問題提起を行うことを重視する。主な検討対象は明治期以降戦前・戦中期の文学・文化（小説・詩・評論その他）とするが、必要に応じて前近代の古典文化・文学についても参照する。併せて近現代における日中関係や中国の文化社会的背景の理解にも留意し、総合的に日本文化と中国文化への理解を深める。	
	ドイツの歴史と文化A		ドイツ語の読解力の養成と、ドイツ近現代史に関する基礎知識の習得、それを通じた広く現代ドイツ語圏文化の理解の深化を目標とする。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすドイツ語圏の歴史・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	
	ドイツの歴史と文化B		ドイツ語の読解力の養成と、ドイツ近現代史に関する基礎知識の習得、それを通じた広く現代ドイツ語圏文化の理解の深化を目標とする。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすドイツ語圏の歴史・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	
ギリシア語・ニ	ギリシア語初級 1		西洋思想の源流であるギリシア哲学や新約聖書をより深く理解するためには、古典ギリシア語の単語や文法について一定の知識が必要となる。この授業では、音読の方法や名詞・動詞・形容詞の基礎的な変化を理解することを通じて、古典ギリシア語が持つ基本的な性格を概観することを目指す。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ノ テ ン 語 科 目	ギリシア語初級 2		この授業では、「ギリシア語初級 1」に引き続き古典ギリシア語の基礎文法の習得を進める。 名詞・形容詞の第三変化や動詞の中動・受動相、接続法などを理解することを通じて、古典ギリシア語で書かれた原典を読み解く力の基礎を養う。	
	ラテン語初級 1		古代から中世を経て近代に至る長い歴史をもつラテン語の規範である古典ラテン語は、人文諸科学を学ぶ者に必須の基本的教養である。この授業では、音読の方法や名詞・動詞・形容詞の基礎的な変化を理解することを通じて、古典ラテン語が持つ基本的な性格を概観することを目指す。	
	ラテン語初級 2		この授業では、「ラテン語初級 1」に引き続き古典ラテン語の基礎文法の習得を進める。 動詞の直説法受動相各時制の人称変化、命令法、不定法、分詞の形などを理解することを通じて、古典ラテン語で書かれた原典を読み解く力の基礎を養う。	
	ギリシア語中級		この授業では、文法事項を確認したうえで、古典ギリシア語で書かれた原典を受講者とともに読み進めていくことにより、古典ギリシア語の時代的・文化的背景への理解を深めていく。	隔年
	ラテン語中級		この授業では、文法事項を確認したうえで、古典ラテン語で書かれた原典を受講者とともに読み進めていくことにより、古典ラテン語の時代的・文化的背景への理解を深めていく。	隔年
A I ・ デ ー タ サイ エ ン ス 科 目	DS・ICT入門Ⅰ	○	インターネットやAI・データサイエンスをはじめとした今日の情報通信社会で必要とされる基礎的な技能と概念を習得し、問題分析能力や問題解決能力を養うことを目的とする。コンピュータの基本操作、インターネット・WWW・電子メールの概念や仕組み、情報の検索と利用、著作権と引用、ファイルシステム、情報倫理、安全対策、ワープロ・表計算・プレゼンテーションの利用、データ・AIの社会での活用方法や留意事項などを学ぶ。	
	DS・ICT入門Ⅱ	○	DS・ICT入門Ⅰをもう1段階強化して実践的にアカデミックライティング技術やアカデミックなプレゼンテーション技術を習得する。そのために、Officeソフトを効果的に利用するためのスキルを身につける。あわせて、レポートや論文作成に必要な、大量のデータについて、基本的な分析方法を学び、表やグラフで的確に表現する方法を身に付ける。また資料作成に必要な文献検索の方法やインターネットの利用方法を学び、情報を効率良く検索し批判的に取捨選択し、それらを用いて生産的に自らのレポートや論文、発表資料として構成しなおす作業を、情報技術を用いて効率良く行える力を身に付ける。	
	DSのための数学入門		データサイエンスの中の数学として、微分積分学、線形代数学、確率統計が基礎的な役割を果たす。これらの科目を学ぶ際に登場する数学の基本的な事柄について解説する。その中で登場する様々な概念に関する計算技術を習得し、具体的な問題への適用を行う。予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	コンピュータ・サイエンスⅠ		「コンピュータ・サイエンスⅡ」と併せて受講することにより、コンピュータの基本的な仕組みを理解し、自在に使いこなすための基礎的な素養を身につける。情報処理技術の知識面の基礎を重点的に扱う。この授業では、主に、ハードウェア構成や、コンピュータ上での情報の表現方法に関する知識を学ぶ。これらの内容を、適宜実習を交えることで理解を深める。情報処理技術者試験などの情報処理関連の資格試験の基盤となる内容を広く含む。	
	コンピュータ・サイエンスⅡ		「コンピュータ・サイエンスⅠ」と併せて受講することにより、コンピュータの基礎的な仕組みを理解し、自在に使いこなすための基礎的な素養を身につける。情報処理技術や知識面の基礎を重点的に扱う。この授業では、主にソフトウェアに着目し、OSの仕組みや役割、プログラムの言語処理方式、アルゴリズムやネットワーク等について学ぶ。適宜実習を通して、これらの内容の理解を深める。情報処理技術者試験などの情報処理関連の資格試験の基盤となる内容を広く含む。	
	情報と社会		コンピュータを中心とする情報技術の発達が今日の社会・文化に与えている変化について、歴史の経緯とその意味を考える。コンピュータ技術そのものではなく、そのようなコンピュータのあり方を形成してきた文化的背景を取り上げる。この授業では、現在、インターネットを中心とする情報技術がどのように発展しつつあるのか、またそれがどのような社会・文化の変化をもたらしつつあるのかについて考える。また、その中で、情報コンテンツの著作権などをめぐり、情報倫理の問題がどのように提起され、どのように論じられているのかについても理解する。	
	情報と職業		情報社会における産業構造と職業構造の変化、情報関連職種への就業に必要な基礎知識、および、情報関連分野の業務内容について解説する。その上で、情報関連職種に就業することの実情を多面的に理解させることを通じて、職業適性について考え、職業人としての役割や責任を自覚することの重要性を説く。さらに、職業意識や倫理観、情報関連職種のキャリアパス、専門性の習得など、情報社会における人材育成のあり方について説く。	
	ネットワークとセキュリティ		インターネットをはじめとするコンピュータ・ネットワークについて、基本的な仕組みを理解し、実習を通じてネットワークの基本的な設定の技術を身につける。ネットワーク利用時のセキュリティについてもあわせて学習する。これらの学習は、ネットワークケーブルの作成やPCへのネットワークの設定等の実習を行うことで、より理解が深まる。自宅等のごく小規模なネットワークの構築をできるような技術を身につける。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
D S 基礎	DSのための微分積分入門I		データサイエンスの基礎となる微分積分学について学ぶ。微分と積分の意味を理解して基本的な計算法に習熟し、具体的な問題に適用できるようになることを目標として、微分積分の基本事項について解説する。特に、その発見が微分積分学成立の契機となった微分と積分の関係（微分積分学の基本定理）を理解することに重点を置く。文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	DSのための微分積分入門II		DSのための微分積分入門Iの学びを発展させ、自然や社会の現象に現れる平衡状態の記述や様々な最大最小問題などが、微分と積分の概念を用いて表現できることを学ぶ。1変数と多変数の微分と積分の基本的な計算法を習得し、具体的な問題に適用するための基礎手法を学ぶ。微分や積分を含む方程式の意味と簡単な場合の解法を理解する。DSのための微分積分入門Iで学んだ内容は既知として授業を進める。	
	DSのための線形代数入門I		データサイエンスの基礎となる線形代数について学ぶ。高校で学んだ、平面や空間のベクトルを用いた図形の取り扱い方を発展させた考え方が「線形代数」であり、この思考法は関連する計算技術とともに、自然科学および社会科学において広く用いられている。この思考法の具体的な表現形式である「数ベクトル空間」や「行列」を中心に、線形代数の基本的な概念と計算技術について、予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	DSのための線形代数入門II		高校で学んだ、平面や空間のベクトルを用いた図形の取り扱い方を発展させた考え方が「線形代数」であり、この思考法に基づく計算技術は、様々なデータの取り扱いや全体的傾向の分析をはじめ、自然・社会科学的現象の分析に広く活用されている。DSのための線形代数入門Iの学びを発展させ、この「線形代数」の計算的側面について、様々な応用例に触れつつ、距離を備えた「ベクトル空間」における基本的な計算技術の習得を中心に学ぶ。	
	DSのための確率		自然や社会における様々な現象から抽出されたデータを分析する際、統計の考え方は必要不可欠である。まず、統計学の基礎となる確率の概念を理解することから始め、確率分布、条件付き確率、独立確率変数の和の分布、大数の法則、中心極限定理などの確率の理論の概要を学ぶ。そして推定や仮説検定などの統計学の基本的な手法と、それらの応用について学ぶ。予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	DSのための統計		取得した情報の分析のために、統計的データ解析の入門から応用までの講義を行う。観測データからどのようなことが推論付けられるか、またいかにして真に有効な、あるいは有益な情報を抽出することができるかを中心に解説する。統計解析ソフトとしては、普及率の高いExcelを用いる予定である。Excelを用いて、データ解析の方法（データの集計、グラフ化、統計的方法による分析）について実習を行う。	
	データ分析		DS基礎での学びを発展させ、多変量解析に関する講義を行い、データサイエンスの思考方法を習得させることを目的とする。より専門的な応用事例を取り上げ、文理融合型の研究におけるデータサイエンスの有効性と重要性を理解させるための講義を行う。	
	DS基礎		データサイエンスの手法を学ぶことに加え、文化現象を対象にデータサイエンスの手法を用いた事例を通し、文理融合型の研究におけるデータ分析の有効性と重要性を学ぶ。生活に必要なデータサイエンスと統計の基礎を身につける。	
D E 基礎	Rプログラミング		コンピュータに作業させるには、プログラムを書いて実行させる必要がある。プログラムとは何か、プログラムを実行させるとはどういうことかを、実際にR言語でプログラムを作成し、結果を確認することで理解する。特にR言語が得意とする統計解析、データ分析、可視化を中心に実習を交えた講義を行う。	
	Pythonプログラミング		コンピュータに作業させるには、プログラムを書いて実行させる必要がある。プログラムとは何か、プログラムを実行させるとはどういうことかを、実際にプログラムを作成し、結果を確認することで理解する。どのような処理を行うプログラムを作成したいか、そのためにはどのような順序で何を書けばよいか、Pythonを用いてアルゴリズムを考えながら作成する。	
	データハンドリングの基礎		データ分析時に必要となる、データの预处理、クレンジングなど、データ処理の基本的な操作、考え方を実習を交えながら学ぶ。データの基本的な性質をデータ操作の中で体得し、統計学とその適切な活用的重要性を認識させる。コンピュータ操作、データ構造の基礎などに関しても解説する。	
	機械学習の基礎		DS基礎での学びを発展させ、機械学習の手法を学ぶ。文化現象を対象としてデータサイエンスの手法を用いた研究事例を概観することで、文理融合型の研究におけるデータサイエンスの有効性と重要性を理解する。	
早稲田大学 関連科目	データ科学入門 α		データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であることを理解し、データ科学の考え方の基礎を修得する。データ科学の重要性やデータ分析の一連の流れを知った上で、1変量データ、2変量データの要約・パラメータ推定を題材に、データ科学において共通となる基本的な考え方を学ぶ。同一のデータであっても目的が複数存在しうることを学び、解析の目的による問題解決のプロセスを理解する。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	データ科学入門 β		データ科学入門 α に引き続き、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に、データ科学の基本的な手法を修得する。特に、説明変数と目的変数の関係を表す回帰・分類の問題を対象としてデータ科学の考え方を学ぶ。ここでは、説明変数と目的変数の関係を数学的に表現し、これを評価するための目的に依存する様々な基準について理解することを目的とする。	
	データ科学入門 γ		データ科学入門 β に引き続き、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に、データ科学の基本的な手法を修得する。特に、多変量データの扱いを題材として重回帰分析と分類問題に焦点を当て、分析の目的に応じて適切なモデルを探索する方法を学ぶ。さらに、本講義の関連として、深層学習（ディープラーニング）の考え方やその利用方法についても理解する。	
	データ科学入門 δ		データ科学入門 γ に引き続き、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に、データ科学の基本的な手法を修得する。特に、データ縮約の観点からクラスタリング及び主成分分析について学ぶ。さらにデータのサンプリングや前処理を踏まえ、データ科学の一連の流れにおける注意点を知らるとともに、より実際のデータへの取り扱いや、得られた結果の妥当性の検証方法などを修得する。	
	データ科学実践		データ科学入門を通して、基本的なデータ分析の手法を修得していることを前提に、データ分析の筋道を立て、実際にデータ分析を行って結果を考察するまでの一連の流れを演習形式で学ぶ。演習では、データ分析の目的、データの種類、前提となる条件等を考慮してデータ分析の筋道を立てることと、その筋道に沿ってデータ分析を行うことを重視し、実践的な分析力を養う。多種多様な大量のデータの取り扱い方を理解することを目的とする。	
	回帰と分類のデータ科学		データ科学入門を通して、基本的なデータ分析の手法を修得していることを前提に、回帰・分類問題における様々な拡張の中で重要と考えられる手法を学ぶ。具体的には、パラメータに関する関数型を非線形に拡張するなど、予測精度を向上させるための考え方を学ぶ。実際のデータに対して目的を設定し、データ科学の問題設定として表現できる力、得られたデータと設定した問題に対して、適切な手法を選択する力などを養うことを目的とする。	
	時系列構造のデータ科学		データ科学入門を通して、基本的なデータ分析の手法を修得していることを前提に、変数間に順序関係が存在する数値構造およびそこから発生するデータ分析の考え方を学ぶ。順序関係を持つ数値構造の代表例として、時間的な前後関係があり、時間的な順序関係を持つデータに対する解析である時系列解析の基礎を学ぶとともに、必ずしも時間的な関係に限らない順序関係を持つデータおよびその数値構造についても理解することを目的とする。	
	潜在構造のデータ科学		データ科学入門を通して、基本的なデータ分析の手法を修得していることを前提に、連続な潜在変数から量的変数のデータへの線形変換に誤差が発生する数値構造として主成分分析や因子分析について学ぶ。また、離散的な質的潜在変数の値により異なる確率分布からデータが生成されるクラスタリングや潜在クラスモデルについて学ぶ。データの欠損、外れ値やベイズ統計学との関連などを含め、潜在構造データに対する統一的なデータ科学の考え方を修得する。	
	潜在構造のデータ科学		データ科学入門を通して、基本的なデータ分析の手法を修得していることを前提に、連続な潜在変数から量的変数のデータへの線形変換に誤差が発生する数値構造として主成分分析や因子分析について学ぶ。また、離散的な質的潜在変数の値により異なる確率分布からデータが生成されるクラスタリングや潜在クラスモデルについて学ぶ。データの欠損、外れ値やベイズ統計学との関連などを含め、潜在構造データに対する統一的なデータ科学の考え方を修得する。	
学 芸 員 課 程 科 目	博物館概論		博物館は、人間と人間を取り巻く環境に関する様々な「もの」を収集し、保存・調査・研究して、公開・活用している。こうした博物館に関する基礎知識、すなわち、博物館の意義と役割について学ぶ。博物館の定義・種類・歴史、さらに博物館関係法令や博物館学の役割などを順を追って学んでゆく。	
	博物館資料論		博物館はさまざまな資料を収集し、整理・分類・調査・研究し、保存・活用している。資料の収集では、購入・寄贈・借用・採集など具体的方法を学ぶ。資料の分類・整理では、多様な資料の分類と整理、そして調査・研究を経て、目録や図録の作成と情報発信に至るまでを学ぶ。なお、資料の保存は「博物館資料保存論」で、資料の活用は「博物館展示論」で主に展開される。	
	博物館経営論		博物館を運営するための基本的な仕組みを学ぶ。博物館運営の枠組は大きくは①予算、②組織（人事）、③施設などからなり、その運営にあたっては、会社や学校などとは異なる博物館特有の問題がある。こうした点を踏まえながら博物館運営の特質を学ぶ。社会と博物館との関係の築き方については、展示はもとより、様々な関連イベント、利用者との関係づくりなど、様々な事業活動がある。博物館経営の視点からそれら事業活動の現状と課題について学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	博物館資料保存論		温度・湿度・照明・大気などが資料の保存にどのような影響を与えるかを学び、同時に対策を考える。同じく生物が資料に与える害と対策を学ぶ。そして、資料保存の歴史と意義、さらに資料の修復や複製品の製作、屋外の文化財の保存や災害の防止と対策などを学ぶ。	
	博物館展示論		博物館のもつ外的事業の軸となる展示活動について、①企画・立案、②資料の選択、③展示案の確定、④解説プレート・図録の作成、⑤会場の設営、⑥展示の実行、⑦関連事業、⑧広報、⑨後片付けなど、一つの展示達成のための作業を逐一詳しく学ぶ。同時に関連事業やイベントの在り方、ボランティアの活用など、市民参加の展示活動の実態についても学ぶ。	
	博物館教育論		博物館における教育の意義と理念を学ぶ。学びの場としての博物館は、実物を見ることができると、体験できることという利点をもっている。学校教育との連携や多様化しつつある教育のあり方の中で、博物館が担うべき部分の工夫と創造を模索する。	
	生涯学習論		生涯学習の意義を考えつつ、老人・主婦・サラリーマン・学生など全ての人の学習の場のあり方を、国内外の具体例を検証し、学ぶ。また、公民館職員・図書館司書・博物館学芸員など社会教育に携わる人々の役割と使命を考える。	
	博物館情報・メディア論		博物館における情報・メディアの意義および情報発信の課題を学ぶ。併せて、さまざまな情報を掘みとること、および、視覚をはじめ人間のもつ五感に訴える効果的・効率的な情報機器の活用法を学ぶ。これらの学習をととして博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的な能力を養う。	
	博物館実習 1		資料の取り扱い方に関する基本的知識・技術の習得を目標として、巻物や掛け軸遂行力を実習をととして養う。これら個々の作業や実務は一見独立しているかに見えるが、実際には博物館活動の中では相互に関連している。こうした博物館実務の一端と相互の関連性を実習を通じて学ぶ。また、博物館運営の現状についてより深く理解するために、様々な館種の博物館見学を行い、博物館の諸業務の実態と課題を学ぶ。	
	博物館実習 2		博物館実習 1 の授業内容を踏まえ、資料の取り扱いをととした博物館の諸事業、たとえば展示の企画立案・広報・関連事業などの諸業務の遂行力を実習をととして養う。これら個々の作業や実務は一見独立しているかに見えるが、実際には博物館活動の中では相互に関連している。こうした博物館実務の一端と相互の関連性を実習を通じて学ぶ。また、博物館運営の現状についてより深く理解するために、様々な館種の博物館見学を行い、博物館の諸業務の実態と課題を学ぶ。	
	博物館実習 3		本授業は、①実際の博物館現場における7～10 日程度の博物館実務実習（館図実習）、②学内における事前・事後指導の授業、③個別の指導によって構成される。博物館実務の一端は「博物館実習1・2」で習得しており、この授業では実際の博物館の現場において、諸業務の実際を現場体験することで、運営実務の実践的能力を習得する。実習期間中は担当学芸員の指導を受けつつ実務を学び、実習ノートを作成して担当学芸員に提出し、その指導を受け、翌日には改善するなど積極的に学ぶようにする。学内においても実習効果を高めるため事前・事後指導の授業、個別指導を行う。	